

シラバス

2026年度 夜間部1年



学校法人 札幌青葉学園

✻ 北海道歯科衛生士専門学校

目次

	科目名称	ページ
	歯科衛生士学校教育課程	P2
	授業実施計画表	P3
1	生物学・組織発生学	P4
2	生化学	P6
3	教養基礎	P8
4	解剖学・口腔解剖学	P10
5	生理学・口腔生理学	P12
6	口腔組織発生学	P16
7	歯牙解剖学	P18
8	薬理学・口腔薬理学	P20
9	微生物学・口腔微生物学	P22
10	口腔衛生学・歯科衛生統計Ⅰ	P24
11	歯科衛生士概論	P26
12	歯科臨床概論	P28
13	歯科保存学Ⅰ	P30
14	歯科補綴学Ⅰ	P32
15	う蝕予防処置法	P34
16	歯科予防処置論Ⅰ	P36
17	歯科予防処置実習Ⅰ	P38
18	歯科保健指導論Ⅰ	P40
19	歯科保健指導実習Ⅰ	P42
20	歯科診療補助論Ⅰ	P44
21	歯科診療補助実習Ⅰ	P46
22	臨地実習・臨床実習Ⅰ	P48

教育課程 夜間部									
分野	教育内容	基準 単位数	開講 単位数	科目名称	単位数	学年別授業時間数			年間授業 時間数
						1	2	3	
基礎分野	科学的思考の基礎	10	10	生物学・組織発生学	2	30			30
	人間と生活			生化学	2	30			30
				教養基礎	1	15			15
				栄養学	1		15		15
				心理学	1		15		15
				英語	1		15		15
				情報処理	1		15		15
				接遇作法	1		15		15
小計	10	10		10	75	75	0	150	
専門基礎分野	人体の構造と機能	15	15	解剖学・口腔解剖学	3	45			45
	生理学・口腔生理学			3	45			45	
	口腔組織発生学			1	15			15	
	歯牙解剖学			2	30			30	
	薬理学・口腔薬理学			2	30			30	
	微生物学・口腔微生物学			2	30			30	
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	7	7	病理学・口腔病理学	2		30		30
				口腔衛生学・歯科衛生統計Ⅰ	2	30			30
				口腔衛生学・歯科衛生統計Ⅱ	1		15		15
				衛生学・公衆衛生学Ⅰ	1		15		15
				衛生学・公衆衛生学Ⅱ	1			15	15
				衛生行政・社会福祉	2			30	30
小計	22	22		22	225	60	45	330	
専門分野	歯科衛生士概論	2	2	歯科衛生士概論	1	15			15
	臨床歯科医学	8	9	歯科臨床概論	1	15			15
				歯科保存学Ⅰ	1	15			15
				歯科保存学Ⅱ	1		15		15
				歯科補綴学Ⅰ	1	15			15
				歯科補綴学Ⅱ	1		15		15
				歯周治療学	1		20		20
				口腔外科学	1		20		20
				矯正歯科学	1		20		20
				小児歯科学	1			20	20
				障害者歯科・高齢者歯科	1			20	20
	歯科予防処置論	8	8	う蝕予防処置法	1	15			15
				歯科予防処置論Ⅰ	1	15			15
				歯科予防処置論Ⅱ	1		15		15
				歯科予防処置実習Ⅰ	1	30			30
				歯科予防処置実習Ⅱ	2		60		60
				歯科予防処置実習Ⅲ	2			60	60
	歯科保健指導論	7	7	歯科保健指導論Ⅰ	1	15			15
				歯科保健指導論Ⅱ	1		15		15
				歯科保健指導実習Ⅰ	1	30			30
				歯科保健指導実習Ⅱ	2		60		60
				歯科保健指導実習Ⅲ	1			30	30
				摂食機能訓練法	1			15	15
	歯科診療補助論	9	9	歯科診療補助論Ⅰ	1	15			15
				歯科診療補助論Ⅱ	1		15		15
				歯科放射線学	1		15		15
				臨床検査法	1			15	15
				歯科診療補助実習Ⅰ	2	60			60
				歯科診療補助実習Ⅱ	2		60		60
				歯科診療補助実習Ⅲ	1			30	30
				臨地実習・臨床実習	20	20	臨地実習・臨床実習Ⅰ	4	180
	臨地実習・臨床実習	20	20	臨地実習・臨床実習Ⅱ	9		405		405
				臨地実習・臨床実習Ⅲ	7			315	315
				小計	54	55		55	420
選択必修分野	7単位以上を選択	7	9	医療情報処理	1		15		15
				チームケア	1			15	15
				総合学習Ⅰ	1			15	15
				総合学習Ⅱ	2			30	30
				総合学習Ⅲ	2			30	30
				総合学習Ⅳ	2			30	30
小計	7	9		9	0	15	120	135	
合計		93	96		96	720	885	670	2275
必修科目単位数(時間数)					87	720	870	550	2140
選択科目単位数(時間数)					9	0	15	120	135
選択科目のうち卒業に必要な単位数(時間数)					7	0	105		105
						※必要に応じて「特別講義」を実施する。			
単位について 講義 : 1単位15～20時間 基礎実習 : 1単位30時間 臨地・臨床実習 : 1単位45時間									

授 業 実 施 計 画 表(夜間部)

科目	区分	授業形式	学則等規定		第1学年												
			単位数	時間数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
生物学・組織発生学	必修	講義	2	30													
生化学	必修	講義	2	30													
教養基礎	必修	講義	1	15													
解剖学・口腔解剖学	必修	講義	3	45													
生理学・口腔生理学	必修	講義	3	45													
口腔組織発生学	必修	講義	1	15													
歯牙解剖学	必修	講義	2	30													
薬理学・口腔薬理学	必修	講義	2	30													
微生物学・口腔微生物学	必修	講義	2	30													
口腔衛生学・歯科衛生統計Ⅰ	必修	講義	2	30													
歯科衛生士概論	必修	講義	1	15													
歯科臨床概論	必修	講義	1	15													
歯科保存学Ⅰ	必修	講義	1	15													
歯科補綴学Ⅰ	必修	講義	1	15													
う蝕予防処置法	必修	講義	1	15													
歯科予防処置論Ⅰ	必修	講義	1	15													
歯科予防処置実習Ⅰ	必修	実習	1	30													
歯科保健指導論Ⅰ	必修	講義	1	15													
歯科保健指導実習Ⅰ	必修	実習	1	30													
歯科診療補助論Ⅰ	必修	講義	1	15													
歯科診療補助実習Ⅰ	必修	実習	2	60													
臨地実習・臨床実習Ⅰ	必修	実習	4	180													
			36	720													

1. 生物学・組織発生学

2単位（必修）

第1学年（30時間）

担 当 教 員 名	飯塚 正
授 業 科 目 概 要	生物を構成する要素、特に人体の構成要素についてその発生や構造、機能について学ぶ。
目 的	医療従事者として、また歯科衛生士として必ず知っていなければならない人間の体の構造と機能を理解するために必要な生物学および組織発生学の基礎的事項を習得する。
学 習 目 標	・生物とは何かを理解する。 ・生物進化を学び生命の変遷を理解する。 ・生物構成する基本的な物質を理解する。 ・生物の基本単位である細胞の構造・機能を理解する。 ・遺伝子の構造と機能を理解する。 ・染色体、細胞分裂、遺伝とその法則を理解する。 ・受精から個体発生までの過程を知って発生について理解する。 ・体を構成する組織の構成と機能について理解する。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・筆記試験として、中間試験（確認テスト）および期末試験（定期試験）を行う。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教 材	・授業プリントを配布する ・歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1～3	生物の誕生と進化と細胞、生物を構成する物質（原子）
4～6	生物を構成する物質（水・無機化合物・有機化合物）
7～9	細胞膜の構造と機能、細胞小器官
10～12	細胞核・DNA・遺伝子・タンパク合成・染色体・細胞分裂
13～15	遺伝・生殖器
16～18	人体の発生（受精から出産まで）、上皮組織
19～21	支持組織（結合組織・軟骨組織・骨組織）
22～24	神経組織
25～27	筋組織（骨格筋・心筋・平滑筋）、血液
28～30	免疫

2. 生化学

2 単位（必修）

第 1 学年 （30 時間）

担 当 教 員 名	藤 沢 隆 一
授 業 科 目 概 要	わたしたちの体を構成する物質である、タンパク質、糖質などがどういうものか、そして、それらがどのようにして働いているかを学びます。後半では、歯科特有のテーマに注目して、歯がどのような成分から構成されるか、そして、う蝕の発生メカニズムはどうなっているかなどについても学んでいきます。
目 的	この授業の目的は、生命現象を化学の目で理解できるようにすることです。このことは、栄養学、医学の基礎として不可欠です。
学 習 目 標	・ 生化学の基礎となる原子、分子、構造式について理解する。 ・ 糖質について、糖質の種類、構造、代謝、生理機能について理解する。 ・ 脂質について、構造、代謝、生理機能について理解する。 ・ タンパク質について構造、代謝、生理機能について理解する。 ・ 酵素の役割について理解する。 ・ 口腔組織を構成する結合組織の概略を理解する。 ・ 歯の構成成分について理解する。 ・ 唾液の成分、唾液の果たす役割について理解する。 ・ 歯の堆積物であるプラーク、歯石について理解する。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価 ・ 「秀」：90 点以上、「優」：80 点以上、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能 2 生化学・口腔生化学」 （医歯薬出版）
留 意 事 項	化学が苦手な人でもわかるように、基礎的なところから説明していきたいと思います。皆さんは、あらかじめ教科書を良く読んで、予習をしてきてください。

授業計画：講義

回	内 容
1	化学の基礎：1 原子と分子
2	化学の基礎：2 分子量とモル濃度
3	細胞の役割
4	細胞の役割
5	生体における水
6	生体における水
7	生体構成成分と栄養素
8	生体構成成分と栄養素
9	生体構成成分と栄養素
10	生体構成成分と栄養素
11	生体における化学反応・酵素
12	生体における化学反応・酵素
13	脂質の代謝とエネルギーの生成
14	脂質の代謝とエネルギーの生成
15	タンパク質とアミノ酸の代謝
16	タンパク質とアミノ酸の代謝
17	生体における恒常性の維持
18	生体における恒常性の維持
19	結合組織、歯の構成成分
20	結合組織、歯の構成成分
21	硬組織の生化学：石灰化
22	硬組織の生化学：石灰化
23	硬組織の生化学：骨の形成と吸収
24	硬組織の生化学：骨の形成と吸収
25	唾液の生化学
26	唾液の生化学
27	プラークの生化学
28	プラークの生化学
29	生体防御機構と炎症反応
30	生体防御機構と炎症反応

3. 教養基礎

1 単位（必修）

第 1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	菅原 和美
授 業 科 目 概 要	歯科医療現場では、薬品の取り扱いに関する計算や、患者指導に用いる資料の計算が必要になる。そのために基礎的な計算方法を習得する。 また、社会人として必要な国語の基本を学び、言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。
目 的	歯科医療現場で必要となる基礎的な計算方法を習得する。 幅広い年齢層に対応できるよう正しい日本語を身につけ、社会人として必要な言語表現を習得する。
学 習 目 標	1. 基本的な四則計算ができる。 2. 単位の換算ができる。 3. 比を用いた計算ができる。 4. 濃度の計算ができる。 5. 自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できる力を身につける。
成 績 評 価 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	自主教材
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1. 2	四則計算
3. 4	単位の換算
5. 6	比を用いた計算
7. 8	濃度の計算
9. 1 0	国語の基礎①
1 1. 1 2	国語の基礎②
1 3. 1 4	歯科用語(読み・書き)
1 5	文章表現

4. 解剖学・口腔解剖学

3単位（必修）

第1学年（45時間）

担 当 教 員 名	吉田 重光
授 業 科 目 概 要	教科書として全国歯科衛生士教育協会監修の歯科衛生士教本である「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版）」および「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）」を用いる。 具体的には、解剖学総論、骨格系、筋系、脈管系、内臓学、神経・感覚器、内分泌の順に系統別に分けて講義する
目 的	この授業の目的は歯科医学の初学生である1年次学生に、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上で最も基礎となる人体および口腔領域の正常な形態と構造に関する基本的な知識を身につけさせることにある。
学 習 目 標	人体の正常な形態について学び、歯科衛生士として必要な解剖学および口腔解剖学の基礎知識を習得する。 ・人体の区分、方向用語等を理解する。 ・運動器系の基本構造を理解する。 ・呼吸器系の基本構造を理解する。 ・消化器系の基本構造を理解する。 ・循環器系の基本構造を理解する。 ・神経系の基本構造を理解する。 ・感覚器系の基本構造を理解する。 ・泌尿生殖器系の基本構造を理解する。 ・内分泌系の基本構造とホルモンについて理解する。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版） 授業開始時に適宜プリント配布 【参考書】 藤田恒夫 「入門人体解剖学」 南江堂 （学内図書）
留 意 事 項	解剖学・口腔解剖学で学ぶ内容は非常に多く、限られた時間で講義を進めなければならない。したがって、あらかじめ教科書を良く読んで、予習をしてから授業に臨むこと。

授業計画：講義

回	内 容
1～3	解剖学総論・運動器総論
4～6	運動器Ⅰ 体幹四肢の骨と筋
7～9	運動器Ⅱ 頭顔面部の骨と筋
10～12	消化器Ⅰ 総論・口腔・咽頭・食道
13～15	消化器Ⅱ 胃・腸管・肝臓・膵臓
16～18	循環器Ⅰ 総論・心臓
19～21	循環器Ⅱ 動脈・静脈・リンパ管
22～24	呼吸器
25～27	中枢神経Ⅰ 総論・大脳・脳幹
28～30	中枢神経Ⅱ 脊髄 末梢神経Ⅰ 脊髄神経・脳神経①
31～33	末梢神経Ⅱ 脳神経②・自律神経
34～36	感覚器Ⅰ 皮膚・視覚器①
37～39	感覚器Ⅱ 視覚器②・平衡聴覚器
40～42	泌尿器
43～45	内分泌系（ホルモン）

5. 生理学・口腔生理学

3単位（必修）

第1学年（45時間）

担 当 教 員 名	吉澤 知彦
授 業 科 目 概 要	本科目では、人間の身体機能について、生物学的観点から詳しく学ぶ。生理学では、細胞や器官、組織、代謝、神経、筋肉、循環、呼吸、消化、排泄、内分泌、生殖など生体を維持する一連の機構を学習する。口腔は、消化器官、呼吸器官、発語器官、感覚器官として機能し、歯、唾液、咀嚼、味覚など特異的な機能が存在する。これら器官として機能する機構を口腔生理学で学ぶ。
目 的	臨床歯科医学を学ぶにあたり必要な生理学・口腔生理学の知識を修得することを目的とする。口腔・顎・顔面などの諸器官の機能を健全に維持するために、また、これら諸器官の機能障害を予防・治療する上で基礎となる知識を習得する。
学 習 目 標	【一般目標】 生理学では、生命現象を理解するために、生体構成成分である細胞・組織・臓器の機能維持・恒常性維持のための機構の成り立ちを理解する。口腔生理学では、口腔を構成している組織や諸器官の役割を理解し、その機能を健全に維持するための機構についての生理学的な知識を習得する。 【到達目標】 ・細胞膜、細胞質、核、細胞内小器官の機能を説明できる。 ・体循環と肺循環について説明できる。 ・血液を構成する細胞成分・液性成分とその機能を説明できる。 ・心臓の基本的構造と収縮の仕組みを説明できる。 ・血圧を調節する仕組みを説明できる。 ・リンパ系の構造と機能を説明できる。 ・呼吸器の仕組みを理解する。換気の仕組み、肺胞でのガス交換、呼吸調節を理解する。 ・肺活量とは何か説明できる。 ・内分泌とは何か説明できる。内分泌器官とホルモンとその作用について代表的ものを説明できる。 ・受精、妊娠、乳汁分泌の仕組みを理解できる。 ・体温の調節の仕組みを理解できる。 ・消化、吸収とは何か、また、消化管の名称を説明出来る。胃、小腸、大腸の主な働きを説明できる。 ・消化液の代表的な消化酵素を説明できる。 ・排泄とは何か説明出来る。発汗の意味について理解する。排尿の仕組みについて理解する。 ・神経系の構造と機能の単位(ニューロン、シナプス、神経繊維)を説明できる。 ・興奮伝達の機序を理解できる。 ・脊髄神経、脳神経、自律神経の機能を説明できる。 ・中枢神経系の機能(反射中枢、統合作用)を理解できる。 ・感覚性伝導路、運動性伝導路を説明できる。 ・延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳の機能の代表的なものを説明できる。 ・脳波を理解できる。 ・筋肉の種類と機能を説明できる。骨格筋の収縮様式を説明できる。 ・筋の微細構造と筋収縮の仕組みを理解する。心筋の収縮の特徴を説明できる。 ・感覚の分類を理解できる。視覚、聴覚、臭覚、平衡感覚、体性・内臓感覚の仕組みを理解できる。

	・咬合に重要な役割をする歯と歯を支持する歯周組織の機能的構造を説明できる。 ・歯、歯髄、歯周組織の感覚機能を説明できる。 ・口腔粘膜の感覚を理解できる。口腔内の感覚点の特徴を説明できる。 ・味覚の神経機構の概要を理解できる。 ・味蕾のはたらきと分布を説明できる。 ・味覚の五基本味、味覚閾値を説明できる。 ・嗅覚の役割・特性について説明できる。 ・下顎位について説明できる。 ・下顎の運動の特徴について説明できる。 ・下顎の運動に関与する筋（咀嚼筋）について説明できる。 ・咀嚼筋の特性を説明できる。 ・下顎運動と顎関節内の動きを説明できる。 ・顎反射の機序を説明できる。 ・顎運動調節への役割を説明できる。 ・摂食行動を説明できる。 ・咀嚼時の神経性抑制機構を理解できる。 ・咀嚼時の下顎の動き・食物の動きを説明できる。 ・咀嚼能率について説明できる。 ・吸啜・吸指癖について説明できる。 ・嚥下と嘔吐にかかわる解剖学的構造を説明できる。 ・摂食・嚥下の流れについて説明できる。 ・嘔吐の機序、嘔吐の神経機構を説明できる。 ・発声機構の概要を理解できる。声の生成機序を理解できる。 ・言語音の形成と構音障害を説明できる。歯・口腔の病態と発音について説明できる。 ・唾液腺の解剖学的概要を説明できる。 ・唾液の分泌機構を理解できる。 ・唾液の分泌量、性状・成分と機能について説明できる。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版） 配布資料

授業計画

回	内 容
1	生理学導入
2	細胞 1 : 細胞の基本的生理機能 1
3	細胞 2 : 細胞の基本的生理機能 2
4	循環 1 : 心臓の構造と機能、心臓の自動能
5	循環 2 : 心電図、血圧
6	循環 3 : 血管の機能、リンパ循環
7	呼吸 1 : 呼吸器系の構成、胸郭の構造と換気の仕組み
8	呼吸 2 : 肺気量と換気量、肺胞および組織におけるガス交換
9	呼吸 3 : 血液中の O_2 と CO_2 の運搬
10	内分泌 1 : 内分泌器官とホルモン、内分泌器官の構造と機能
11	内分泌 2 : ホルモンの作用機序、ホルモンの分泌調節
12	生殖 : 性周期、受精と妊娠、分娩と乳汁分泌、更年期 体温 : 体熱の産生、体熱の放散、体温の調節、体温の変動
13	消化・吸収 1 : 消化と吸収の概要、口腔での消化、胃の機能
14	消化・吸収 2 : 小腸の機能、大腸の機能
15	腎機能と排尿 : 腎臓の働き、尿の生成、尿の一般的性質、膀胱からの排尿の仕組み（排尿反射）
16	神経系 1 : 神経細胞の興奮と伝導、脳波、高次機能
17	神経系 2 : 反射と随意運動、姿勢調節
18	筋と運動 1 : 筋の機能、運動
19	筋と運動 2 : 筋電図
20	感覚 : 感覚の性質と種類、体性感覚の特徴、感覚情報の伝達
21	口腔生理学導入
22	歯・口腔、顔面の感覚 1 : 口腔顔面領域の神経生理学
23	歯・口腔、顔面の感覚 2 : 口腔顔面痛

2 4	歯・口腔、顔面の感覚 3：口腔顔面領域の触圧覚
2 5	歯・口腔、顔面の感覚 4：口腔顔面領域の温度感覚ほか
2 6	歯・口腔、顔面の感覚 5：口腔感覚とおいしさ
2 7	味覚と嗅覚 1：味覚
2 8	味覚と嗅覚 2：嗅覚
2 9	咬合と咀嚼・吸啜 1：下顎位、
3 0	咬合と咀嚼・吸啜 2：下顎の運動
3 1	咬合と咀嚼・吸啜 3：顎反射
3 2	咬合と咀嚼・吸啜 4：摂食行動
3 3	咬合と咀嚼・吸啜 5：咀嚼能力
3 4	咬合と咀嚼・吸啜 6：吸啜
3 5	嚥下と嘔吐 1：嚥下 1
3 6	嚥下と嘔吐 2：嚥下 2
3 7	嚥下と嘔吐 3：嚥下 3
3 8	嚥下と嘔吐 4：嘔吐
3 9	発声・発語 1：発声機構の概要、声の生成
4 0	発声・発語 2：構音のメカニズム、歯・口腔の病態と構音
4 1	唾液 1：唾液の分泌機構 1
4 2	唾液 2：唾液の分泌機構 2
4 3	唾液 3：唾液の性状・成分と機能 1
4 4	唾液 4：唾液の性状・成分と機能 2
4 5	唾液 5：唾液と疾患

6.口腔組織発生学

1 単位（必修）

第 1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	吉田 重光
授 業 科 目 概 要	教科書として全国歯科衛生士教育協会監修の歯科衛生士教本である「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）」を用い、口腔組織発生学の内容について講義する。 具体的には、顔面と口腔の発生、歯の発生、歯の組織、歯周組織、顎関節について講義する。
目 的	この授業の目的は、歯科医学の初学生である 1 年次学生に、専門分野を学ぶ上で必須の顎口腔領域の発生と組織に関する基本的な知識を身につけさせることにある。
学 習 目 標	顎顔面と口腔の発生、歯および歯周組織について、歯科衛生士として必要な知識を習得する。 ・顔面および口腔の発生について理解する。 ・歯の発生について理解する。 ・歯の組織（エナメル質・象牙質・歯髄・セメント質）について理解する ・歯周組織（歯根膜・歯肉・歯槽骨）について理解する。 ・顎関節について理解する。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上、「優」：80 点以上、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版） 授業開始時に適宜プリント配布
留 意 事 項	口腔組織発生学で学ぶ内容は非常に多く、限られた時間で講義を進めなければならない。したがって、あらかじめ教科書を良く読んで、予習をしてから授業に臨むこと。

授業計画

回	内 容
1	総論
2	顔面と口腔の発生
3	歯と歯周組織の発生Ⅰ
4	歯と歯周組織の発生Ⅱ
5	エナメル質
6	象牙質・歯髄
7	セメント質・歯根膜・歯槽骨
8	歯肉・口腔粘膜・顎関節

7. 歯牙解剖学

2 単位 (必修)

第 1 学年 (30 時間)

担当教員名	藤井 誠
授業科目概要	歯の基本的構造、永久歯および乳歯の形態的特徴、歯の配列と咬合、異常歯などについて学ぶ。 また、実習では、歯のスケッチと歯型彫刻を行って、歯の立体的な形態に対する理解を深める。
目的	歯の基本的形態とそれぞれの特徴について理解し、歯科衛生士として臨床において必要となる歯牙の形態学的知識を修得する。
学習目標	正常な歯の配列と咬合がわかる。 特定の歯の立体的な形態をイメージでき、歯の鑑別ができる。 異常歯の種類を説明できる。
成績評価方法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版) 各種プリント 【参考書】 歯の解剖学 (金原出版)
留意事項	

授業計画：講義

回	内 容
1、2	歯の概論① 歯式、歯の用語、形態に関する名称、ミュールライターの三徴候
3、4	永久歯：中切歯、側切歯、犬歯
5、6	永久歯：第一小臼歯、第二小臼歯

7、8	永久歯：上顎第一大臼歯、第二大臼歯
9、10	永久歯：下顎第一大臼歯、第二大臼歯
11、12	乳歯：乳切歯、乳犬歯
13、14	乳歯：第一乳臼歯、第二乳臼歯
15、16	歯の配列と咬合、異常歯
17、18	実習 歯のスケッチ：上顎第一大臼歯
19、20	実習 歯型彫刻：上顎第一大臼歯
21、22	実習 歯型彫刻：上顎第一大臼歯
23、24	実習 歯のスケッチ：下顎第一大臼歯
25、26	実習 歯型彫刻：下顎第一大臼歯
27、28	実習 歯のスケッチ：上顎第一小臼歯、上顎第二小臼歯
29、30	実習 歯のスケッチ：下顎第一小臼歯、下顎第二小臼歯

8. 薬理学・口腔薬理学

2 単位（必修）

第 1 学年 （30 時間）

担当教員名	鈴木 邦明
授業科目概要	薬理学は、化学物質である薬物と生体の細胞・組織との相互作用によって生じる現象を研究する科学である。具体的には、薬物の性状、薬物が作用する部位、薬物の作用機構、薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）、中毒、医療上の応用、医療に適する製剤などについて学ぶ。 薬理学は基礎医学の一分野であるが、臨床との接点であり、薬物の臨床医学分野における応用上の指針を示す。薬理学は、対象となる臓器別に細分化されることもあり、歯科薬理学は歯内治療、歯周疾患、口腔粘膜疾患、硬組織（歯や骨）を対象とする薬理学である。
目的	歯科衛生士は歯科臨床の場において多くの薬物に関わる。薬理学・歯科薬理学では、薬物から最大の効果を引き出し、使用するための知識を身に付ける。また、薬物は、誤った使用法により、患者に対してだけでなく、使用する医療関係者に有害な作用を引き起こす危険性もある。自分の身を守るためにも、正しい薬物の取り扱いを理解する必要がある。近年は、高齢化に伴って、循環器疾患や糖尿病などの基礎疾患をもち、多くの薬物を投与されている患者が歯科を受診する機会も多い。歯科以外の治療で使われている薬に関する知識も必要であり、薬物全般に関して学ぶ。これらの知識は、服薬指導を行う上での基礎としても大切である。
学習目標	1. 歯科衛生士としての日常業務に必要な薬理学的な知識を身に付け、説明することができる。 2. 身近にある薬物に関心を持ち、新たな情報を得て知識を深める基盤を築き、理解することができる。
成績評価方法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、小テスト、出席状況、受講態度等を総合的に評価する 以上により総合評価をして可否を判定する。 ・「秀」：90 点以上、「優」：80 点以上、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教材	【プリント】 講義のガイドとして、教科書の重要事項を抜粋した講義資料を配付する。 【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学 第 2 版」 （医歯薬出版） 【参考書】 現代歯科薬理学第 6 版（医歯薬出版）
留意事項	薬理学を理解するには、高校までに学んだ生物学や化学、さらには生化学、生理学および解剖学などの基本的な知識を必要とするので、これらの科目の理解に努めていただきたい。 講義資料としてプリントを配付するので、教科書と合わせて事前に読んでから講義を受けることが望ましい。毎回の講義の最後に、講義内容に関する小テストを行い平常点の評価に使用する。次回の講義の最初に、小テストの解答と解説を行うので、振り返りと知識の定着に活用していただきたい。

授業計画：講義

回	内 容
1	薬物の作用（1）：薬物療法の種類，薬理作用の様式，基本形式，分類
2	薬物の作用（2）：用量反応関係と薬用量の用語，薬理作用の機序
3	薬物動態（1）：生体膜通過様式，吸収，分布
4	薬物動態（2）：代謝，排泄，生物学的半減期
5	薬物の適用方法の種類と特徴：薬物の適用方法の種類，血中濃度の推移，生物学的利用能
6	薬物の作用に影響を与える要因：薬効に影響する因子，薬物の連用，併用，相互作用
7	薬物の副作用，有害作用（1）：薬物の有害作用の分類と原因，一般的副作用
8	薬物の副作用，有害作用（2），医薬品を適用する際の注意：歯科領域における副作用，副作用・有害作用の予知と回避
9	薬物の取り扱い，薬物と法律・薬物と医薬品（1）：剤形，処方せん，配合変化，薬物の保存方法，医薬品医療機器法
10	薬物と法律・薬物と医薬品（2）：日本薬局方，毒薬・劇薬の表示と保管，麻薬及び向精神薬取締法，覚せい剤取締法
11	ビタミンとホルモン：ビタミン，ホルモン
12	末梢神経系に作用する薬物（1）：アドレナリン受容体，アセチルコリン受容体，交感神経・副交感神経と神経伝達物質
13	末梢神経系に作用する薬物（2）：交感神経作動薬と遮断薬，副交感神経作動薬と遮断薬
14	中枢神経系に作用する薬物（1）：全身麻酔薬，アルコール類，催眠薬・抗不安薬，抗てんかん薬
15	中枢神経系に作用する薬物（2）：向精神薬，中枢神経興奮薬，パーキンソン病治療薬，アルツハイマー病治療薬
16	循環器系に作用する薬物：高血圧治療薬，不整脈治療薬，心不全治療薬，狭心症治療薬，脂質異常症治療薬
17	腎臓に作用する薬物，呼吸器系に作用する薬物，消化器系に作用する薬物：腎臓の機能と構造，主な利尿薬と作用機序，気管支喘息治療薬，鎮咳薬，去痰薬，消化性潰瘍治療薬，鎮痙薬
18	血液に作用する薬物：止血機構，止血薬，抗血栓薬，抗貧血薬
19	免疫と薬，悪性腫瘍と薬，代謝性疾患治療薬：免疫増強薬，免疫抑制薬，抗アレルギー薬，悪性腫瘍とは，抗悪性腫瘍薬，糖尿病治療薬，骨粗鬆症治療薬
20	炎症と薬（1）：アラキドン酸カスケード，炎症のケミカルメディエーター，ステロイド性抗炎症薬
21	炎症と薬（2），痛みと薬：非ステロイド性抗炎症薬，解熱鎮痛薬，オピオイド系鎮痛薬，非オピオイド系鎮痛薬
22	局所麻酔薬（1）：局所麻酔薬の作用機構，血管収縮薬の併用
23	局所麻酔薬（2）：局所麻酔薬の分類と化学構造，適用法
24	抗感染症薬（1）：感染症と抗感染症薬，抗感染症薬の作用機序と副作用， β -ラクタム系抗菌薬
25	抗感染症薬（2）：マクロライド系抗菌薬，テトラサイクリン系抗菌薬，ニューキノロン系抗菌薬
26	消毒に使用する薬（1）：消毒薬の作用機序，消毒薬の分類，酸化剤，ハロゲン化合物，アルコール類，アルデヒド類
27	消毒に使用する薬（2），う蝕予防薬：フェノール類，界面活性剤，HBVとHIVに対する消毒薬，フッ化物の臨床応用
28	歯内療法薬（1）：歯髄の保存に用いる薬物，根管治療に用いる薬物
29	歯内療法薬（2），歯周疾患治療薬：象牙質知覚過敏症に用いる薬物，歯周疾患治療薬，洗口薬，口臭治療に用いる薬物
30	顎・口腔粘膜疾患と薬，漢方医学と薬物：炎症性疾患，口腔粘膜疾患，顎関節症，口腔乾燥症に用いる薬物，漢方薬

9. 微生物学・口腔微生物学

2 単位（必修）

第 1 学年 （30 時間）

担 当 教 員 名	笠井 満知子
授 業 科 目 概 要	微生物の種類と構造ならびに感染様式、ならびに生体がどの様にこれらの微生物を認識、排除しているかという生体防御機構に関する知識を学ぶ。また、これらの知識を基に、歯科医療現場での種々の微生物感染防御に必要な滅菌法、消毒法、ならびに化学療法を学ぶ。更に、口腔感染症の大部分は歯垢中の常在菌による感染症であるという特殊性を理解した上で口腔感染症の発症機構ならびに予防法に関する知識を学ぶ。
目 的	微生物の種類と構造ならびに感染様式、ならびにこれらの微生物に対する生体防御機構について正しく理解し、さらに、歯垢中の常在菌による感染症であるという口腔感染症の特殊性を理解し、正常な口腔のみならず様々な口腔疾患を有する傷病者に対する診療助介や予防指導および口腔介護を安全に実施できるように役立てること。
学 習 目 標	ヒトに感染する微生物の種類、構造と感染様式、それらの病原微生物に対する生体防御機構、さらに、滅菌・消毒ならびに化学療法を理解し、感染予防対策を立案できる能力を養うために以下の項目を重点に理解する。 1. 微生物の概要と感染の様式 2. 細菌、ウイルス、真菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの性質とそれらの感染症 3. 微生物の培養ならびに観察方法 4. 化学療法ならびに滅菌消毒法 5. 口腔環境の特殊性 6. う蝕ならびに歯周病の細菌学 7. 主な病原菌とその感染症 8. 歯科に関連するウイルスとそれらの感染症 9. 生体防御機構 10. アレルギー
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・講義ごとの確認テスト、中間試験ならびに期末試験を行い、最終的にそれぞれ 10%, 45%ならびに 45%として評価し、可以上を合格とする。 ・「秀」：90 点以上、「優」：80 点以上、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学 第 2 版」（医歯薬出版）
留 意 事 項	毎回の講義をしっかりと聞いてください。とくにまとめプリントの内容は重要な点をまとめているので必ず理解して覚えてください。

授業計画：講義

回	内 容
1	微生物学の概要
2	感染の成立と感染の種類
3	細菌の分類と性状
4	細菌の増殖と病原因子
5	ウイルスの構造と増殖
6	真菌の構造と増殖
7	微生物の培養、観察と検査
8、9	化学療法
10、11	消毒と滅菌
12	口腔環境と常在微生物
13	バイオフィルムとしてのプラーク
14、15	う蝕の細菌学
16、17	歯周病の細菌学
18	その他の口腔感染症
19	主な病原細菌（グラム陽性球・桿菌）
20	主な病原細菌（グラム陰性球・桿菌）
21	スピロヘータ・マイコプラズマ・クラミジア・リケッチア
22	歯科に関連するウイルスとウイルス感染症
23	歯科に関連する真菌・口腔領域の原虫・プリオン
24	免疫の種類・生体のバリア機構
25	自然免疫・抗原提示
26	獲得免疫
27	能動免疫と受動免疫・粘膜免疫
28、29	アレルギー
30	微生物学と免疫学の歴史概要

担 当 教 員 名	兼 平 孝
授 業 科 目 概 要	口腔衛生学は、歯科医学においては基礎に位置づけられる科目であるが、様々な予防処置や保健指導などの臨床的な内容、公衆歯科衛生や地域歯科保健活動などの社会歯科学的内容も多い。歯や口腔の正常な状態、機能に加えて、う蝕や歯周病、その他の口腔疾患の原因と予防法を学ぶことで、国民の口腔の健康増進を図ることを目的とする。
目 的	歯科予防処置及び歯科保健指導の基礎となる口腔衛生学を学ぶことにより、予防処置や保健指導などの実践に役立てる。
学 習 目 標	【一般目標】 口腔衛生学の内容を確実に理解し、臨床現場のみならず広く社会で実践することは歯科衛生士の基本的任務である。そのため、口腔衛生学を講義や実習から興味と意欲をもって十分学び、う蝕や歯周病等の予防的処置や保健指導、地域の歯科保健活動に参画できるようにする。 【到達目標】 ① 口腔衛生学の位置づけ、意義を理解する ② 予防や保健、健康増進の概念・意義を理解する ③ 第一次予防、第二次予防、第三次予防について理解する ④ 歯や口腔の正常像、機能を理解する ⑤ 口腔の不潔と口腔清掃について理解する ⑥ う蝕や歯周病の原因と予防法について学ぶ ⑦ 不正咬合や口臭、その他の口腔疾患の原因と予防法について学ぶ ⑧ 公衆歯科衛生の概念および地域歯科保健活動について理解する ⑨ 歯科疾患を表現する各種の指数と疫学について学ぶ ⑩ 得られたデータを統計処理する方法について学ぶ ⑪ 地域の歯科保健状況を分析する方法について学ぶ ⑫ 地域に必要な歯科保健対策を立案する方法について学ぶ ⑬ 地域の歯科保健活動を実施する方法について学ぶ
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 口腔衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」 口腔衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」 【参考図書】 口腔保健学第2版（医歯薬出版） 新予防歯科学第4版（医歯薬出版）スタンダード口腔保健学（学建書院）
留 意 事 項	

授業計画：第1学年

回	内 容
1、2	口腔衛生学の意義 ①口腔衛生学とは ②健康障害への対応の5つのステップ
3、4	歯・口の健康（1） ①歯・口の正常像
5、6	歯・口の健康（2） ②歯・口の機能 ③全身と歯・口の発育
7、8	歯・口の健康（3） ③全身と歯・口の発育 ④全身疾患との関連
9、10	口腔の不潔（1） ①口の環境 ②歯の付着物・沈着物
11、12	う蝕の予防（1） ①う蝕という病気 ②う蝕発病のしくみ
13、14	う蝕の予防（2） ③う蝕の発生要因
15、16	う蝕の予防（3） ④う蝕活動性
17、18	う蝕の予防（4） ⑤う蝕の予防法
19、20	歯周疾患の予防（1） ①歯周疾患の疫学 ②歯周疾患の症状と分類
21、22	歯周疾患の予防（2） ③発病機構
23、24	歯周疾患の予防（3） ④予防手段 ⑤歯周疾患の予防処置
25、26	不正咬合の予防 ①不正咬合の成立 その他の疾患・異常の予防（1） ①顎関節症
27、28	その他の疾患・異常の予防（2） ②口臭 ③舌痛症
29、30	その他の疾患・異常の予防（3） ④口腔癌 ⑤智歯周囲炎

1 1. 歯科衛生士概論（実務教員による講義）

1 単位（必修）

第 1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	中村 亜希子
授 業 科 目 概 要	保健・医療福祉の概念および歯科疾患の概要を会得し、歯科医療の特異性と歯科衛生士の果たす役割と業務上の義務と責任について十分理解して、歯科衛生士を目指す者としての学習態度、心構えなどを養えるようにする。
目 的	歯科医療の特異性、歯科衛生士の果たす役割と、業務上の義務と責任について理解を深め、社会のニーズを敏感にキャッチし、対応する力を身につける。
学 習 目 標	【一般目標】 歯科衛生士の業務内容・歴史等と歯科衛生士を取り巻く環境について修得する。 【到達目標】 ① 歯科衛生学を説明できる。 ② 歯科衛生業務の歴史について説明できる。 ③ 歯科衛生と健康の関係を概説できる。 ④ 歯科衛生法と関係する法規について概説できる。 ⑤ 倫理の必要性を説明できる。 ⑥ 様々な思考について説明できる。 ⑦ 歯科衛生過程について説明できる。 ⑧ 医療安全対策の必要性和法的責任について説明できる。 ⑨ 多職種連携について説明できる。 ⑩ 災害時の歯科衛生士の役割を説明できる。 ⑪ 国際活動のあり方について説明できる。 ⑫ 歯科衛生士の組織活動を説明できる。 ⑬ 歯科衛生のキャリア形成について説明できる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科衛生学概論」（医歯薬出版）
留 意 事 項	学問知識のみでなく、希望をもって歯科衛生士を目指して学習する意欲を喚起できるようにする。

授業計画：講義

回	内 容
1	1 章 歯科衛生学とは 2 章 歯科衛生の歴史と現況
2	3 章 歯科衛生と健康
3	3 章 歯科衛生と健康
4	4 章 歯科衛生士法と関係する法規
5	4 章 歯科衛生士法と関係する法規
6	5 章 歯科衛生士と倫理
7	5 章 歯科衛生士と倫理
8	6 章 歯科衛生実践のための倫理
9	7 章 歯科衛生実践の展開
1 0	8 章 医療安全確保における歯科衛生士の役割
1 1	8 章 医療安全確保における歯科衛生士の役割
1 2	9 章 保健・医療・福祉の制度と多職種連携
1 3	1 0 章 災害時における歯科衛生活動
1 4	1 1 章 歯科衛生士の国際化 1 2 章 組織活動
1 5	1 3 章 歯科衛生士のキャリア形成 まとめ

12. 歯科臨床概論（実務教員による講義）

1単位（必修）

第1学年（15時間）

担 当 教 員 名	高嶋 美佳
授 業 科 目 概 要	歯科医学の歴史・歯科基礎医学を概観し歯科医療を全体的に見る。歯科医療の特異性・医療従事者と患者さんとの関係・歯科診療のながれ・歯科疾患の概要・各診療科における治療の概要を講義する。
目 的	歯科医学に携わる者としてその仕事の間である歯科臨床についての概要を知ることが目的とする。
学 習 目 標	【一般目標】 現実の歯科医療がどのように行われ、どのような病気が存在し、どのように治療が行われていくのかを概観する。 【到達目標】 ① 世界と日本の歯科医療の歴史を学ぶ。 ② 医療と歯科医療に共通する倫理や歯科医療独特の問題を理解する。 ③ 患者との対応、小児から高齢者、有病歯科患者に至るまでの対応を考える。 ④ 歯科疾患の全容を概観する。詳細は各科の講義で行う。 ⑤ 歯科診療の概要と歯科診療のながれを理解する。 ⑥ 各診療科（保存・歯周病・補綴・小児・矯正・口腔外科）の治療の概要を理解する。それぞれの治療に於ける歯科衛生士の役割を理解する。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1	I 編 1 章 歯科診療とは 2 章 歯科診療所
2	I 編 3 章 歯科診療所における業務
3	II 編 1 章 ライフステージと歯科診療 II 編 2 章 歯科診療で行うこと 1. 診査・検査・前処置 ①パیتالサインの確認 ②画像検査
4	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 1. 診査・検査・前処置 ③歯周組織 ④痛みのコントロール
5	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 2. 小児歯科 ①小児歯科 ②先天異常への対応
6	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 2. 小児歯科 ③う蝕予防処置
7	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 3. 歯科矯正
8	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 4. 口腔外科 ①口腔外科 ②外傷の治療 ③抜歯
9	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 4. 口腔外科 ③抜歯 ④口腔粘膜疾患の処置
10	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 5. 歯科保存 ①歯科保存 ②象牙質知覚過敏症 ③歯冠部う蝕
11	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 5. 歯科保存 ④根面う蝕 ⑤歯内療法 ⑥歯のホワイトニング
12	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 6. 歯周治療
13	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 7. 歯科補綴 ①歯科補綴 ②義歯の製作
14	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 7. 歯科補綴 ②義歯の製作
15	II 編 2 章 歯科診療で行うこと 8. 障害者歯科・高齢者歯科

13. 歯科保存学 I

1 単位（必修）

第 1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	渡邊 千春
授 業 科 目 概 要	歯科の二大疾患の一つである齲蝕を扱う科目であり、「保存修復学」「歯内療法学」に分けられる。 「保存修復学」では、歯の硬組織疾患と、これに対しての成形修復、鑄造修復などの各種治療法、臨床術式について説明する。 「歯内療法学」では歯髄疾患および根尖性歯周疾患とその病状、これらに対する歯髄保存療法、歯内療法、外科的歯内療法、歯の漂泊などの各種治療法と臨床術式について説明する。
目 的	硬組織疾患、歯髄疾患、根尖性疾患の病態とその症状を知り、各疾患に対する治療法とその内容を理解、熟知し、歯科保存治療に対する歯科衛生士の役割とチーム医療を実践するための必要な知識を習得する。
学 習 目 標	【到達目標】 ・ 歯科保存治療の対象疾患を列挙できる。 ・ 歯科保存治療における診査方法について説明できる。 ・ 歯の痛みの種類と由来を説明できる。 ・ 齲蝕の病態と形成形態、窩洞の分類と具備すべき条件を説明できる。 ・ 歯髄疾患、根尖性歯周疾患を列挙し、それぞれの病態と治療方針について説明できる。 ・ 保存修復治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 感染根管治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 根管充填法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 外科的歯内療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯の変色の原因を分類、説明できる。 ・ 歯の漂白の方法について理解できる。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 ・ 授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「保存修復学・歯内療法学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	あらかじめ教科書を読んで授業に臨むこと。 事前に資料の配布等があった場合は、各自予習しておくこと。

授業計画：第1学年

回	内 容
1、2	歯科保存学とは：対象となる疾患 口腔診査：基礎知識と前準備 現症
3、4	保存修復学 保存修復の適応症と禁忌症 対象となる硬組織疾患① う蝕の発生機構、う蝕の分類と名称、う蝕の発生要因
5、6	対象となる硬組織疾患② エナメル質う蝕、象牙質う蝕、根面う蝕、二次う蝕 咬耗症、摩耗症、侵蝕症、変色・着色歯、エナメル質形成不全、破折、形態異常
7、8	保存修復の材料・器具 窩洞形成と歯髄刺激
9、10	歯髄保護法
11、12	窩洞について 窩洞の分類、Blackの窩洞分類、歯面の略号と窩洞の名称 コンポジットレジン修復
13、14	セメント修復 鑄造修復
15	ラミネートベニア修復 アマルガム修復

14. 歯科補綴学Ⅰ

1 単位（必修）

第 1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	石垣 諒
授 業 科 目 概 要	補綴治療に必要な口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎を学ぶ。 クラウン、ブリッジ、有床義歯に代表される各種補綴物の構成、材料について学び、併せて補綴物が装着されている口腔の衛生指導法を習得する。 また、補綴治療に際しての診療室での治療と技工室での技工操作との関連性についても学ぶ。
目 的	歯の欠損、喪失に続いて生じる弊害を理解する。 人工物（補綴装置）を用いて口腔の諸機能及び外観を回復する過程を理解する。
学 習 目 標	口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎が理解できる。 補綴治療による形態および口腔諸機能の回復について説明できる。 回復した形態および機能を維持するために必要な口腔衛生指導を身に付ける。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 ・ 授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科補綴学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画：第1学年

回	内 容
1	歯科補綴治療学とは 歯科補綴治療の意義、目的 補綴装置の種類と適応
2	歯科補綴治療学とは 歯科補綴治療の意義、目的 補綴装置の種類と適応
3	歯科補綴治療の基礎知識：1 歯列の形態と位置的關係 顎口腔系の機能
4	歯科補綴治療の基礎知識：1 歯列の形態と位置的關係 顎口腔系の機能
5	歯科補綴治療の基礎知識：2 咬合とその関連事項 顎関節症
6	歯科補綴治療の基礎知識：2 咬合とその関連事項 顎関節症
7	歯科補綴治療の臨床：1 クラウン 分類
8	歯科補綴治療の臨床：1 クラウン 分類
9	歯科補綴治療の臨床：1 クラウン 診療ステップ
10	歯科補綴治療の臨床：1 クラウン 診療ステップ
11	歯科補綴治療の臨床：1 クラウン 診療ステップ
12	歯科補綴治療の臨床：2 ブリッジ 構成と材料
13	歯科補綴治療の臨床：2 ブリッジ 構成と材料
14	歯科補綴治療の臨床：2 ブリッジ 臨床ステップ
15	歯科補綴治療の臨床：2 ブリッジ 臨床ステップ

15. う蝕予防処置法(実務教員による講義・実習)

1 単位 (必修)

第 1 学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	藤田 愛
授 業 科 目 概 要	・ う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術、および態度を学ぶ
目 的	・ う蝕予防を予防するために宿主の原因や検査方法について専門的知識と技術を習得する目的と意義を理解するために、その概要について習得する ・ う蝕予防法のフッ化物、小窩裂溝填塞の専門的知識と技術を習得する目的と意義を理解するために、その概要について習得する
学 習 目 標	・ う蝕予防処置に関連する生活習慣の把握方法と項目を説明できる ・ う蝕と全身疾患の関連を説明できる ・ う蝕予防処置の臨床的効果、作用機序、安全性、および便宜性を説明できる ・ う蝕リスク判断のために行う、う蝕活動性試験の目的と種類を説明できる ・ う蝕活動性試験を実施できる ・ 対象者のう蝕活動性を評価し、う蝕予防プログラムを立案できる ・ フッ化物の使用薬剤の種類と濃度、およびその取り扱い方法を説明できる ・ フッ化物歯面塗布の適応歯を説明できる ・ フッ化物歯面塗布の術式を説明できる ・ フッ化物歯面塗布を実施できる ・ フッ化物歯面塗布実施上の注意点を説明できる ・ フッ化物洗口法の対象年齢と洗口方法を説明できる ・ フッ化物洗口法実施上の注意点を説明できる ・ 小窩裂溝填塞材の種類と特徴を説明できる ・ 小窩裂溝填塞の適応歯を説明できる ・ 小窩裂溝填塞の術式を説明できる ・ 小窩裂溝填塞を実施できる ・ 小窩裂溝填塞実施上の注意点を説明できる
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 ・ 授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・ 「秀」: 90 点以上, 「優」: 80 点以上, 「良」: 70～79 点, 「可」: 60～69 点, 「不可」: 59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 (医歯薬出版)、プリント
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1	Ⅱ編 2章 ②う蝕 3.う蝕の原因
2	Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 3.歯周病に関連する検査
3	Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4.う蝕に関する検査
4	Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4.う蝕に関する検査
5	Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4.う蝕に関する検査
6	Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4.う蝕に関する検査
7	Ⅲ編 3章③フッ化物の応用 1.フッ化物局所応用によるう蝕予防法
8	Ⅲ編 3章③フッ化物の応用 2.フッ化物歯面塗布
9	Ⅲ編 3章③フッ化物の応用 2.フッ化物歯面塗布
10	Ⅲ編 3章③フッ化物の応用 3.フッ化物洗口
11	Ⅲ編 3章③フッ化物の応用 5.フッ化物の毒性と急性中毒への対応
12	Ⅲ編 3章④小窩裂溝填塞法
13	Ⅲ編 3章④小窩裂溝填塞法
14	Ⅲ編 3章④小窩裂溝填塞法
15	Ⅲ編 3章④小窩裂溝填塞法

16. 歯科予防処置論Ⅰ（実務教員による講義）

1単位（必修）

第1学年（15時間）

担 当 教 員 名	中村 麻希
授 業 科 目 概 要	歯科予防処置は、歯科疾患の発症および進行を予防し、口腔の健康を維持・増進するために歯科衛生士が担う重要な業務の一つである。本科目では、歯科に関わる基礎知識を学ぶとともに、口腔および口腔周囲の構造、歯周組織について基礎的理解を深める。また、口腔内の付着物・沈着物の種類と特徴、う蝕および歯周病の概要について理解し、歯石除去に使用する器具およびその基本的手順について学習する。これらを通して、歯科予防処置の基礎知識を習得し、今後の専門科目および臨地・臨床実習へとつなげる。
目 的	歯科予防処置に必要な基礎知識として、歯の名称や歯式、口腔および歯周組織の構造、口腔疾患の概要を理解する。また、歯石除去に関する基本的な知識および使用器具について学び、歯科予防処置の基礎を修得することを目的とする。
学 習 目 標	【一般目標】 歯科予防処置を理解するための基礎として、歯科に関する専門用語、歯の名称や歯式、口腔および歯周組織の構造について理解する。また、口腔内の付着物・沈着物、う蝕および歯周病の概要、歯石除去に使用する器具および基本的手順について学び、歯科予防処置の基礎的知識を修得する。 【到達目標】 ・ 歯科医療において用いられる基本的な専門用語を説明できる ・ 乳歯および永久歯の特徴と歯の名称を説明できる。 ・ ジグモンディー歯式およびFDI歯式による歯の表記方法を説明できる。 ・ 歯の位置や方向を表す用語を説明できる。 ・ 口腔および口腔周囲の主な構造を理解できる。 ・ 歯周組織の構造と役割を説明できる。 ・ 口腔内の付着物および沈着物の種類と特徴を説明できる。 ・ う蝕および歯周病の概要を理解できる。 ・ 歯石除去に使用する主な器具の名称と用途を理解できる。 ・ 歯石除去の基本的な流れおよび手順を理解できる。
成 績 評 価 方 法	・ 3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版） プリント
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1.2	歯科に関わる専門用語、乳歯・永久歯の特徴、歯の名称
3.4	ジグモンディー歯式、FDI 歯式、歯の方向用語
5.6	歯科予防処置の概要、口腔および口腔周囲の構造
7.8	歯周組織の構造と機能
9.10	口腔内の付着物・沈着物（プラーク、歯石、着色など）
11.12	う蝕および歯周病の概要
13.14	歯石除去で使用する器具
15	歯石除去の概要および基本的手順 まとめ

17. 歯科予防処置実習Ⅰ（実務教員による講義・実習）

1 単位（必修）

第1学年 （30時間）

担 当 教 員 名	高嶋 美佳
授 業 科 目 概 要	歯周病予防・治療における歯石除去技術を成熟するため、歯周病の基礎知識、必要器材・機械とその取り扱い、歯石除去技術の基本を習得させる。
目 的	歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。
学 習 目 標	① 歯科予防処置の定義と内容を説明できる。 ② インストルメントの取り扱い、管理ができる。 ③ 手用スクレーラーの種類と特徴が説明できる。 ④ 鎌型スクレーラーの基本操作ができる。 ⑤ マネキン上での鎌型スクレーラーによる前歯部の歯石除去ができる。 ⑥ 歯面研磨用器具・器材の使用法が説明できる。 ⑦ マネキン上での歯面研磨ができる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版） プリント配布
留 意 事 項	

授業計画：第1学年

回	内 容
1	マネキン操作について ホームポジション、マキシラアングル、ヘッドローテーション
2～6	訓練用石膏棒で基本操作実習
7～16	歯石除去 マネキン実習（上顎前歯部）
17～24	歯石除去 マネキン実習（下顎前歯部）
25	歯石除去 マネキン実習 復習
26	歯面研磨 研磨用具、研磨剤について
27、28	歯面研磨 マネキン実習
29	試験対策
30	試験対策

18. 歯科保健指導論Ⅰ（実務教員による講義）

1 単位（必修）

第1 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	菅原 和美
授 業 科 目 概 要	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するための基本となる知識を学ぶ
目 的	・ 歯科保健指導について基礎学問的な領域を理解する ・ 歯科保健指導における専門的な知識、技術および態度を習得する
学 習 目 標	・ 歯科保健指導の意義と特性を説明できる ・ 口腔の構造と機能を説明できる ・ 咀嚼の働きを説明できる ・ 各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 ・ 授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2 版」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1	歯科保健指導の必要性・定義 歯科衛生士法における歯科保健指導の位置づけ
2	歯科保健指導の概要 健康の概念
3	口腔の基礎知識 口腔の機能
4	口腔の機能
5	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・妊産婦期
6	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・妊産婦期
7	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・乳児期
8	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・乳児期
9	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・幼児期
10	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・学齢期
11	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・思春期・青年期
12	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・成人期
13	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・高齢期
14	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ・高齢期
15	まとめ

19. 歯科保健指導実習Ⅰ（実務教員による講義・実習）

1単位（必修）

第1学年（30時間）

担 当 教 員 名	伊達 万惟子
授 業 科 目 概 要	人々の歯・口腔の健康を維持・増進するためにプロフェッショナル・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を学ぶ
目 的	口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する
学 習 目 標	・歯・口腔の疾患と異常の観察と評価ができる ・口腔衛生管理に関する清掃器具を説明できる ・各種ブラッシング法を実演できる ・歯磨剤・洗口剤の特徴を説明できる ・口腔清掃状態の測定ができ、指数化できる(PCR)
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上，「優」：80点以上，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」（医歯薬出版）

授業計画

回	内 容
1～3	歯科保健指導とは 歯科保健指導の基礎 ・ 歯、口腔の正常像と異常像の理解
4～6	口腔の器質的問題の把握 ・ 歯、口腔の汚れの状態の観察と初期病変の理解
7～9	相互実習 口腔内観察実習（歯、歯肉、舌、口腔粘膜、唾液、歯面の付着物・沈着物）
10～12	口腔清掃法 ・ 各種ブラッシング法
13～15	口腔清掃法 ・ 各種ブラッシング法
16～18	口腔清掃法 ・ 各種ブラッシング法
19～24	歯磨剤・洗口剤 ・ 種類、使用方法 実習
25～27	歯垢染色剤 ・ 種類、使用方法、特徴 プラークの菌数 ・ P C R
28～30	相互実習 染め出し、口腔清掃

20. 歯科診療補助論Ⅰ（実務教員による講義）

1 単位（必修）

第1学年（15時間）

担 当 教 員 名	中村 亜希子
授 業 科 目 概 要	歯科診療補助を行うにあたり、歯科診療における基礎知識を持ち、理解させる。
目 的	歯科診療の補助と介助の違いについて理解できる。 感染予防のための滅菌・消毒の重要性を理解し実践できる。 歯科診療における基礎知識を身に付け実践できる。
学 習 目 標	・ 歯科診療補助と介助の違いについて説明できる ・ 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を列挙できる ・ 感染防止の重要性を説明できる ・ 滅菌と消毒の違いについて説明できる ・ 医療廃棄物の種類とバイオハザードマークについて説明できる ・ 清潔域・不潔域の区別ができる ・ 歯科診療における基礎知識を持ち、理解でき説明できる ・ 歯科診療室における受診の流れを説明できる ・ 歯科訪問診療における歯科衛生士の役割を理解できる
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 ・ 授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論 第2版」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1	歯科診療補助とは
2～3	医療安全
4～6	感染予防 ・歯科医療における感染防止対策 ・医療従事者としての対応 ・診療室、診療機器の感染防護 ・清潔域と不潔域 ・手指消毒
7～9	滅菌と消毒 ・滅菌と消毒の分類 ・薬液消毒法 ・器材別滅菌・消毒法
10	医療廃棄物の取り扱い ・医療廃棄物の種類 バイオハザードマーク
11 12	歯科診療における基礎知識 ・歯科診療室の基礎知識 ・歯科診療室における受診の流れ ・特別な配慮が必要な患者対応
13～15	歯科訪問診療における対応

21. 歯科診療補助実習Ⅰ（実務教員による講義・実習）

2単位（必修）

第1学年（60時間）

担 当 教 員 名	中村 亜希子 伊達 万惟子
授 業 科 目 概 要	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を学ぶ
目 的	・専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を習得する ・歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用方法を習得する
学 習 目 標	・歯科診療の補助と歯科診療の介助の違いを説明できる ・歯科診療補助における歯科衛生士の役割を列挙できる ・フォーハンドシステムの基本動作ができる ・診療に応じたバキューム操作ができる ・消毒薬、各種滅菌器械・器具の準備ができる ・消毒薬、各種滅菌器械・器具の操作・取り扱いができる ・模型用材料の種類と基本的性質を説明できる ・模型用材料の取り扱いができる ・合着・接着材・仮着用材料の種類と基本的性質を説明できる ・各種合着・接着材・仮着用材料の取り扱いができる ・印象材の種類と基本的性質を説明できる ・印象材を練和できる ・仮封材の種類と基本的性質を説明できる ・仮封材の取り扱いができる
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論 第2版」 （医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科機器」 （医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科材料」 （医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「保存修復学・歯内療法学」 （医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	手指消毒、グローブ装着と着脱
2～4	ファントムのセッティング方法 (2F 実習室)
5～7	実習室の使用法 相互実習の手引き・ユニットの説明①
8～10	実習室の使用法 相互実習の手引き・ユニットの説明②
11～13	実習室の使用法 相互実習の手引き・ユニットの説明③
14～16	歯科診療補助基本 1 患者誘導、ポジション・姿勢・ライティング実習
17～19	歯科診療補助基本 2 バキューム実習 スリーウェイシリンジ操作
20～22	歯科診療補助基本 2 バキューム実習 スリーウェイシリンジ操作
23～25	歯科診療補助基本 2 バキューム実習 スリーウェイシリンジ操作
26～28	歯科材料実習 (衛生材料) 綿花材の種類と取り扱い、ブローチ綿栓の取り扱い
29～31	歯科材料実習 (石膏) 普通石膏の取り扱い
32～34	歯科材料実習 (石膏) 石膏棒の作製
35～37	歯科材料実習 (合着材・仮着材 1) 合着材・仮着材の取り扱い
38～40	歯科材料実習 (合着材・仮着材 2) 合着材・仮着材の取り扱い
41～43	歯科材料実習 (印象材) 各種印象材の取り扱い
44～46	歯科材料実習 (印象材) 印象採得法 1 綿栓
47～49	歯科材料実習 (印象材) 印象採得法 2 綿栓
50～52	歯科材料実習 (印象材) 印象採得法 3 綿栓
53～54	歯科材料実習 (印象材) 印象採得法 4 綿栓
55～57	歯科材料実習 (印象材) 印象採得法 5 綿栓
58～60	まとめ

2.2. 臨地実習・臨床実習Ⅰ（実務教員による実習）

4単位（必修）

第1学年

（180時間）

担 当 教 員 名	中村 麻希 菅原 和美 中村 亜希子 高嶋 美佳 藤田 愛 伊達 万惟子
授 業 科 目 概 要	歯科衛生士とは歯科診療所の中でどのような役割を担っているか。医療人の一員として、歯科衛生士はどのようにあるべきか、実際に働いている歯科衛生士を見て、自分になりたい歯科衛生士像を考える。
目 的	臨床の現場を見て医療人とはどうあるべきかを認識させる。
学 習 目 標	・スタッフと協働し、連携のとれた対象者へのサービスができる ・プライバシーを配慮した態度で応対できる ・対象者の守秘義務を遵守できる ・診療室のルールを理解した行動ができる ・医療安全管理に配慮した行動ができる ・感染予防対策に応じた行動ができる
成 績 評 価 方 法	・施設評価 ・臨地実習・臨床実習への取組みと実習態度 ・出席状況 ・提出物 以上により総合評価を行い可否判定する
教 材	【教科書】 ・新人歯科衛生士・歯科助手ポケットマニュアル 第2版 ・これまでに使用したすべての教科書、プリント
留 意 事 項	実習に臨む心構えをきちんともたせ礼儀作法や身だしなみに注意させる。 注）授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す。

授業計画：第1 学年

回	内 容
1	歯科診療所 見学実習：1
2	歯科診療所 見学実習：2
3	歯科診療所 見学実習：3
4	歯科診療所 見学実習：4
5	歯科診療所 見学実習：5
6	歯科診療所 見学実習：6
7	歯科診療所 見学実習：7
8	歯科診療所 見学実習：8
9	歯科診療所 見学実習：9
10	歯科診療所 見学実習：10
11	歯科診療所 見学実習：11
12	歯科診療所 見学実習：12
13	歯科診療所 見学実習：13
14	歯科診療所 見学実習：14
15	歯科診療所 見学実習：15

シラバス

2026年度 夜間部2年



学校法人 札幌青葉学園

★ 北海道歯科衛生士専門学校

目次

	科目名称	ページ
	教育課程	P2
	授業実施計画表	P3
1	衛生行政・社会福祉	P4
2	歯科保存学Ⅱ	P6
3	歯科補綴学Ⅱ	P8
4	歯周治療学Ⅱ	P10
5	口腔外科学Ⅱ	P12
6	矯正歯科学Ⅱ	P14
7	小児歯科学Ⅱ	P16
8	障害者歯科Ⅱ	P18
9	高齢者歯科Ⅱ	P20
10	歯科麻酔学・有病者歯科医療	P22
11	歯科予防処置論Ⅱ	P24
12	歯科予防処置実習Ⅱ	P26
13	歯科保健指導論Ⅱ	P28
14	歯科保健指導実習Ⅱ	P30
15	歯科診療補助論Ⅱ	P32
16	臨床検査法	P34
17	歯科診療補助実習Ⅱ	P36
18	臨地実習・臨床実習Ⅱ	P38
19	医療情報処理	P40

教育課程 昼間部										
分野	教育内容	基準 単位数	開講 単位数	科目名称	単位数	学年別授業時間数			年間授業 時間数	備考
						1	2	3		
基礎 分野	科学的思考の基礎	10	12	生物学・組織発生学	2	30			30	
	人間と生活			生化学	2	30			30	
				教養基礎	1	15			15	
				栄養学	2	30			30	
				心理学	1	15			15	
				英語	1	15			15	
				情報処理	2	30			30	
				接遇作法	1	15			15	
小計	10	12		12	180	0	0	180		
専門基礎 分野	人体の構造と機能	15	17	解剖学	2	30			30	
	生理学			2	30			30		
	口腔解剖学			2	30			30		
	歯牙解剖学			2	30			30		
	口腔組織発生学			1	15			15		
	口腔生理学			2	30			30		
	疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学・口腔薬理学	2	30			30			
		微生物学・口腔微生物学	2	30			30			
		病理学・口腔病理学	2	30			30			
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	7	8	衛生学・公衆衛生学	2	30			30	
				口腔衛生学・歯科衛生統計	4	60			60	
衛生行政・社会福祉				2		30		30		
小計	22	25		25	345	30	0	375		
専門 分野	歯科衛生士概論	2	3	歯科衛生士概論	1	15			15	
				歯科医療倫理	1	15			15	
				歯科臨床概論	1	30			30	
	臨床歯科医学	8	17	歯科保存学Ⅰ	1	15			15	
				歯科保存学Ⅱ	1		15		15	
				歯科補綴学Ⅰ	1	15			15	
				歯科補綴学Ⅱ	1		15		15	
				歯周治療学Ⅰ	1	15			15	
				歯周治療学Ⅱ	1		15		15	
				口腔外科学Ⅰ	1	15			15	
				口腔外科学Ⅱ	1		15		15	
				矯正歯科学Ⅰ	1	15			15	
				矯正歯科学Ⅱ	1		15		15	
				小児歯科学Ⅰ	1	15			15	
				小児歯科学Ⅱ	1		15		15	
				障害者歯科Ⅰ	1	15			15	
				障害者歯科Ⅱ	1		15		15	
				高齢者歯科Ⅰ	1	15			15	
				高齢者歯科Ⅱ	1		15		15	
				歯科麻酔学・有病者歯科医療	1		15		15	
	歯科予防処置論	8	9	う蝕予防処置法	2	30			30	
				歯科予防処置論Ⅰ	1	15			15	
				歯科予防処置論Ⅱ	1		15		15	
				歯科予防処置実習Ⅰ	2	60			60	
				歯科予防処置実習Ⅱ	2		60		60	
				歯科予防処置実習Ⅲ	1			30	30	
	歯科保健指導論	7	9	歯科保健指導論Ⅰ	1	15			15	
				歯科保健指導論Ⅱ	1		15		15	
				歯科保健指導実習Ⅰ	2	60			60	
				歯科保健指導実習Ⅱ	2		60		60	
				歯科保健指導実習Ⅲ	1			30	30	
				摂食機能訓練法	1			15	15	
				口腔筋機能訓練法	1			15	15	
	歯科診療補助論	9	12	歯科診療補助論Ⅰ	1	15			15	
				歯科診療補助論Ⅱ	1		15		15	
歯科放射線学				1	15			15		
臨床検査法				1		15		15		
救急蘇生法				1			15	15		
チームケア				1			15	15		
歯科診療補助実習Ⅰ				2	60			60		
歯科診療補助実習Ⅱ				3		90		90		
歯科診療補助実習Ⅲ				1			30	30		
臨地実習・臨床実習	20	25	臨地実習・臨床実習Ⅰ	1	45			45		
			臨地実習・臨床実習Ⅱ	12		540		540		
			臨地実習・臨床実習Ⅲ	12			540	540		
小計	54	75		75	495	945	690	2130		
選択必修 分野	7単位以上を選択	7	11	医療情報処理	2		30		30	
				症例検討	1			15	15	
				医療保険事務	1			15	15	
				総合学習Ⅰ	1			15	15	
				総合学習Ⅱ	2			30	30	
				総合学習Ⅲ	2			30	30	
				総合学習Ⅳ	2			30	30	
	小計	7	11		11	0	30	135	165	
合計		93	123		123	1020	1005	825	2850	
必修科目単位数(時間数)					112	1020	975	690	2685	
選択科目単位数(時間数)					11	0	30	135	165	
選択科目のうち卒業に必要な単位数(時間数)					7	0	105		105	
※必要に応じて「特別講義」を実施する。										
単位について 講義 : 1単位15-30時間			基礎実習 : 1単位30時間			臨床・臨地実習 : 1単位45時間				

授 業 実 施 計 画 表(昼間部)

科目 学則で定める科目名称	区分	授業 形式	学則等規定		第2学年											
			単位数	時間数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
衛生行政・社会福祉	必修	講義	2	30												
歯科保存学Ⅱ	必修	講義	1	15												
歯科補綴学Ⅱ	必修	講義	1	15												
歯周治療学Ⅱ	必修	講義	1	15												
口腔外科学Ⅱ	必修	講義	1	15												
矯正歯科学Ⅱ	必修	講義	1	15												
小児歯科学Ⅱ	必修	講義	1	15												
障害者歯科Ⅱ	必修	講義	1	15												
高齢者歯科Ⅱ	必修	講義	1	15												
歯科麻酔学・有病者歯科医療	必修	講義	1	15												
歯科予防処置論Ⅱ	必修	講義	1	15												
歯科予防処置実習Ⅱ	必修	実習	2	60												
歯科保健指導論Ⅱ	必修	講義	1	15												
歯科保健指導実習Ⅱ	必修	実習	2	60												
歯科診療補助論Ⅱ	必修	講義	1	15												
臨床検査法	必修	講義	1	15												
歯科診療補助実習Ⅱ	必修	実習	3	90												
臨地実習・臨床実習Ⅱ	必修	実習	12	540												
医療情報処理	選択	講義	2	30												
			36	1005												

1. 衛生行政・社会福祉

2 単位 (必修)

第 2 学年 (30 時間)

担 当 教 員 名	佐藤 美寿々
授 業 科 目 概 要	これからの社会を担う歯科衛生士に必須となる、わが国の保健・医療・福祉の諸制度、関連法規、社会保障の仕組みについて概説する。
目 的	少子高齢化が進む中、歯科衛生士の役割はう蝕や歯周病の予防にとどまらず、全身の健康を見据えた口腔健康管理へと拡大している。医療従事者として各種法制度や行政の仕組みを理解し、保健・医療・福祉の協働や地域包括ケアシステムの中で歯科衛生士が果たすべき役割を学ぶ。
学 習 目 標	1. わが国の医療提供体制と医療関連法規（医療法、歯科三法、他職種の法規など）について理解する。 2. 歯科衛生士法に基づく専門性、業務範囲（歯科予防処置、歯科診療の補助、歯科保健指導）、義務および倫理について説明できる。 3. 地域包括ケアシステムや地域保健、母子保健、学校保健などの関連法規を理解する。 4. 社会保障制度（医療保険、介護保険、年金保険、社会福祉など）の仕組みを理解する。 5. 医療の動向（医療費や受療状況）について把握し、社会のニーズに対応できる基礎知識を身につける。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 保健・医療・福祉の制度（医歯薬出版） 配布プリント
留 意 事 項	予習、復習を必ずすること。

授業計画

回	内 容
1	わが国の医療制度と医療法（1 章） 内容：保健・医療・福祉の制度を学ぶ目的、歯科衛生士の専門性、わが国の医療制度の全体像、医療法の概要（医療提供の理念、医療の安全、医療施設）
2	歯科三法 ①歯科医師法・歯科技工士法（1 章） 内容：歯科医師法（業務独占、名称独占、義務等）、歯科技工士法（歯科技工と歯科医業、歯科技工指示書など）
3	歯科三法 ②歯科衛生士法（1 章） 内容：歯科衛生士法の目的、3 大業務（歯科予防処置、歯科診療の補助、歯科保健指導）、免許と登録、業務上の義務・守秘義務
4	医療関係職種（2 章） 内容：チーム医療に関わる他職種（看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、診療放射線技師、言語聴覚士、薬剤師等）の業務と関係法規の理解

回	内 容
5	その他の関係法規 ①地域包括ケアシステムと地域保健（3章） 内容：地域包括ケアシステムの背景と仕組み、地域保健に関する法律（地域保健法、保健所・市町村保健センター）、健康増進法
6	その他の関係法規 ②対象者別の保健関連法規（3章） 内容：母子保健法、学校保健安全法、労働安全衛生法、精神保健福祉法
7	その他の関係法規 ③歯科口腔保健法・薬事・衛生関連法規（3章） 内容：歯科口腔保健の推進に関する法律、薬事に関連する法規（医薬品医療機器等法など）、その他の衛生法規（食品衛生法、感染症法など）
8	社会保障 ①社会保障制度と医療保険（4章） 内容：社会保障と社会保険の仕組み、医療保険制度（被用者保険、国民健康保険、後期高齢者医療制度、診療報酬の仕組み）
9	社会保障 ②介護保険（4章） 内容：介護保険制度の概要、保険給付の手続き、介護報酬、口腔関連の介護サービスと歯科衛生士の関わり
10	社会保障 ③年金保険・労働法規（4章） 内容：公的年金制度の仕組み、労働基準法、雇用保険、労働者災害補償保険
11	社会福祉 ①社会福祉行政と児童家庭福祉（4章） 内容：社会福祉の考え方、生活保護と法規、児童家庭福祉制度、児童虐待の防止等に関する法律
12	社会福祉 ②障害者・高齢者の福祉（4章） 内容：障害者の福祉制度（障害者総合支援法、障害者虐待防止法など）、高齢者の福祉制度（老人福祉法、高齢者虐待防止法、認知症基本法など）
13	医療の動向 ①健康状態と医療施設・従事者（5章） 内容：国民の健康状態と受療状況、歯科診療所や歯科医療従事者数の推移と動向
14	医療の動向 ②国民医療費（5章） 内容：国民医療費の範囲と状況、制度区分・年齢階級別の医療費、歯科診療医療費の推移
15	総復習・予備 内容：全14回の総まとめ、重要法規・制度の復習、質疑応答（試験への対策等）

2. 歯科保存学Ⅱ

1 単位（必修）

第2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	池田 欣希
授 業 科 目 概 要	歯科の二大疾患の一つである齲蝕を扱う科目であり、「保存修復学」「歯内療法学」および「歯科漂白」から構成される。 「保存修復学」では、歯の硬組織疾患と、これに対しての成形修復、鑄造修復などの各種治療法、臨床術式について説明する。 「歯内療法学」では歯髄疾患および根尖性歯周疾患とその病状、これらに対する歯髄保存療法、歯内療法、外科的歯内療法などの各種治療法と臨床術式について説明する。 「歯科漂白」では、生活歯および失活歯の漂白法について臨床術式と作用メカニズムを解説する。
目 的	硬組織疾患、歯髄疾患、根尖性疾患の病態とその症状を知り、各疾患に対する治療法とその内容を理解、熟知し、歯科保存治療の対する歯科衛生士の役割とチーム医療を実践するための必要な知識を習得する。さらに、歯の漂白法の概要と臨床術式を習得する。
学 習 目 標	【到達目標】 ・ 歯科保存治療の対象疾患を列挙できる。 ・ 歯科保存治療における診査方法について説明できる。 ・ 歯の痛みの種類と由来を説明できる。 ・ 齲蝕の病態と形成形態、窩洞の分類と具備すべき条件を説明できる。 ・ 歯髄疾患、根尖性歯周疾患を列挙し、それぞれの病態と治療方針について説明できる。 ・ 保存修復治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 感染根管治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 根管充填法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 外科的歯内療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯の変色の原因を分類、説明できる。 ・ 歯のホワイトニングの手法を列挙できる。 ・ 生活歯漂白法の器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 失活歯漂白法の器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。
成 績 評 価 法	① 筆記試験 ② 講義への取り組み方、出席点、学習態度 以上により総合評価を行い、可否を判定する
教 材	歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	あらかじめ教科書を読んで授業に臨むこと。 事前に資料の配布等があった場合は、各自予習しておくこと。

授業計画

回	内 容
1	歯内療法学 ・ 歯内療法学の概要 ・ 歯の痛み ・ 歯髄・根尖性歯周組織の症状と診断
2	歯内療法学 ・ 歯髄・根尖性歯周組織の処置方針
3	歯内療法学 ・ 歯科衛生士と歯内療法 ・ 歯髄の保存療法
4	歯内療法学 ・ 歯髄の除去療法 ・ 歯髄切断法 ・ 生活歯髄切断法 ・ 失活歯髄切断法 ・ 抜髄法 ・ 器具と滅菌・消毒法
5	歯内療法学 ・ 感染根管治療の基本概念 ・ 根管治療の術式 ・ 器具・器材の準備
6	歯内療法学 ・ 根管充填
7	歯内療法学 ・ 外科的歯内療法 ・ 漂白法
8	保存修復学 模型実習 コンポジットレジン充填

3. 歯科補綴学Ⅱ

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	小山 拳人
授 業 科 目 概 要	補綴治療に必要な口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎を学ぶ。 クラウン、ブリッジ、有床義歯に代表される各種補綴物の構成、材料について学び、併せて補綴物が装着されている口腔の衛生指導法を習得する。 また、補綴治療に際しての診療室での治療と技工室での技工操作との関連性についても学ぶ。
目 的	歯の欠損、喪失に続いて生じる弊害を理解する。 人工物（補綴装置）を用いて口腔の諸機能および、外観を回復する過程を理解する。
学 習 目 標	口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎が理解できる。 補綴治療による形態および口腔諸機能の回復について説明できる。 回復した形態および機能を維持するために必要な口腔衛生指導を身に付ける。
成 績 評 価 方 法	・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科補綴学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	臨床編 部分床義歯① 概要、名称、分類
2	臨床編 部分床義歯② クラスプ、アタッチメント
3	臨床編 部分床義歯③ 大連結子、臨床ステップ
4	臨床編 全部床義歯① 概要、名称、前処置
5	臨床編 全部床義歯② 印象、咬合採得
6	臨床編 全部床義歯③ set、指導
7	臨床編 インプラント 構造、臨床
8	臨床編 器材と材料 使い方、特性

4. 歯周治療学Ⅱ

1 単位（必修）

第2学年 （15時間）

担 当 教 員 名	森本 達也
授 業 科 目 概 要	歯周組織の構造と機能、歯周疾患の病態と原因、その予防と治療法について学ぶ。 歯周疾患における診査、診断、基本治療、歯周外科処置、再生治療、メンテナンス等について学習する。
目 的	歯周病の罹患率が高い現在、歯周治療は歯科衛生士としての実力がもっとも問われる分野である。予防や治療の方法を学び、その目的や理論を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	歯周治療に際し、基礎知識を理解した上で、それぞれの病態に応じた治療法を理解できるようにする。 併せて歯科衛生士の役割、予防とメンテナンスの重要性を認識する。
成 績 評 価 方 法	1, 筆記試験 2, 講義への取り組み方、学習態度 以上により総合評価を行い可否判定する。
教 材	教科書：歯科衛生学シリーズ 歯周病学 第2版（医歯薬出版）
留 意 事 項	関連教科である組織発生学、口腔解剖学、微生物学もしっかり学ぶこと

授業計画

回	内 容
1	歯周治療の実際 基本治療 4 ルートプレーニング 知覚過敏処置
2	歯周治療の実際 基本治療 5 咬合調整、暫間固定
3	歯周治療の実際 歯周外科処置 1 外科的歯周治療の目的 基本手技と使用器具 ポケット搔爬術、新付着術
4	歯周治療の実際 歯周外科処置 2 歯肉切除術、フラップ手術
5	歯周治療の実際 歯周外科処置 3 歯肉歯槽粘膜外科手術 組織再生誘導法
6	歯周治療の実際 咬合性外傷に対する治療法 咬合調整、ナイトガード、固定法 薬物療法、矯正治療 歯周組織の治癒の形態と再生治療
7	歯周治療の実際 歯周治療後のメンテナンス、歯科衛生士の役割
8	歯周治療の実際 患者管理 病状の理解、心理状態の把握 治療後の援助 器具の消毒法 総括

5. 口腔外科学Ⅱ

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	山崎 裕
授 業 科 目 概 要	わが国は高齢社会に突入し、歯科医療受診者においても糖尿病、高血圧、脳・心臓血管疾患など様々な全身疾患を有している事が多い。このような全身疾患の概要、歯科的注意事項を学ぶ。さらに、口腔顎顔面領域には、炎症、外傷、形態異常、腫瘍、嚢胞など様々な疾患が発生し、その中には、口腔に原発する疾患、口腔から全身に影響を与える疾患、全身の部分症状として現れる疾患がある。このように口腔外科は、医科と歯科の境界領域を担う科目である。それぞれの原因、病態と症状・所見との関係、診断法、治療法について理解し、歯科衛生士としての診療における役割と実際面について習得する。
目 的	代表的な全身疾患を理解し、歯科的な注意事項、歯科衛生士の役割を習得する。 口腔外科領域の主な疾患と術式を理解し、口腔外科手術の準備、介助、術後のケアについて理解する。
学 習 目 標	1) 代表的な全身疾患の病態を理解したうえで歯科衛生士の役割を実践できる。 2) 口腔外科疾患の処置・手術に当たっては、病気の全体像（発病因と予後）を把握した上で介助を行うことができる。 3) 種々の口腔疾患に対する口腔外科手術、全身麻酔、局所麻酔における術式を理解し、口腔疾患を取り扱う上での歯科衛生士の役割を認識する。 4) 簡単な検査結果を正しく理解し、処置・手術時の不快症状（バイタルサイン）に早急に対応できる認識能力をつける。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第 2 版（医歯薬出版）
留 意 事 項	口腔外科は理解する内容が多いため予習、復習に努める。

授業計画

回	内 容
1	・ 口腔領域の悪性腫瘍 - 癌（扁平上皮癌） - 肉腫、悪性リンパ腫、悪性黒色腫 - その他
2	・ 血液疾患と出血性素因 - 貧血 - 白血病 - 出血性素因
3	・ 口腔領域の神経疾患 - 三叉神経痛 - 顔面神経麻痺 - 神経障害性疼痛
4	・ 口腔外科診療の実際 - 診察と診断 - 滅菌と消毒 - 創傷の治癒 - 診察と診断の過程における歯科衛生士の役割
5	・ 拔牙術 - 適応症と禁忌症，偶発症，止血方法 - 器材の準備 - 拔牙の実際と介助
6	・ 口腔外科小手術 その1 - 手術器具の種類と使い方，麻酔方法 - 歯槽整形および骨瘤除去手術 - 切開・排膿の手術
7	・ 口腔外科小手術 その2 - 軟組織の手術（小帯切除，粘液嚢胞摘出） - 歯および歯槽骨外傷の処置 - 口腔インプラント
8	・ 口腔ケア - 嚥下障害と誤嚥性肺炎 - 周術期における口腔ケア - 緩和医療における口腔ケア

6. 矯正歯科学Ⅱ

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	小石 桃子 鈴木 悠人
授 業 科 目 概 要	正常咬合と咬合異常 診査、診断 治療方法、治療計画
目 的	咬合、診断法、治療の術式および、長期にわたる治療やフォローについて理解する。
学 習 目 標	① 正常咬合と咬合異常を理解し説明できる ② 咬合異常の治療の種類を理解し、内容を説明できる ③ 使用器材の名称および使用方法を説明できる ④ 矯正装置の名称および使用方法を説明できる ⑤ 矯正装置のメカニクスを説明できる ⑥ 矯正治療における診療補助の前準備、術式、使用器材、メンテナンス、注意点を説明できる
成 績 評 価 方 法	定期試験 小テストなどの総合成績とする。
教 材	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第 2 版（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	矯正装置 保定
2	歯科矯正治療の実際 早期治療の必要性 乳歯列期に歯科矯正治療の対象となる不正咬合 混合歯列期に歯科矯正治療の対象となる不正咬合
3	永久歯咬合期の歯科矯正治療 成人の歯科矯正治療
4	歯科矯正における歯科衛生士の役割 矯正臨床における歯科衛生士の役割 歯科矯正治療開始前の診査、資料収集、診断、治療前の説明と承諾 予防処置と口腔衛生指導
5	口腔習癖の除去 患者教育と患者管理
6	矯正治療中の装置の破損、応急処置 ボンディングの前準備とアーチワイヤーの装着
7	歯間離開、バンド適合、溶接
8	消毒・殺菌・滅菌 事務管理 まとめ
9 特別講義	模型実習 バンド、ブラケットセット、ワイヤー調整（ループなど）、結紮、プライヤーなどの説明

7. 小児歯科学Ⅱ

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	中村 光一
授 業 科 目 概 要	小児の心身の発育・生理的特徴、小児の歯、歯列、咬合の発育、小児のう蝕の特徴と治療法、歯科的問題点、患児の対応法、正常な永久歯列を導くための装置、管理法を理解する
目 的	小児の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	① 小児の成長発育を説明できる ② 歯の萌出と交換、歯列咬合の変化を説明できる ③ 小児の精神発達を理解し、年齢にあった対応ができる ④ 乳歯および永久歯のう蝕予防のための保健指導、処置ができる ⑤ 乳歯う蝕の特徴と乳歯の歯冠修復、歯内療法を説明できる ⑥ 小児の外科的処置および薬物療法を説明できる ⑦ 咬合誘導装置、口腔習癖除去装置の種類と意義を説明できる ⑧ 小児歯科の診療補助の前準備、術式、使用器材、処置後メンテナンスが説明できる
成 績 評 価 方 法	1. 筆記試験 2. 講義への取り組み方、出席状況、学習態度 以上により総合評価を行い可否を判定する。
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 小児歯科学（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	小児歯科における診療体系(3) (歯内療法・外科処置・外傷歯の処置・咬合誘導・定期健診)
2	障害児の歯科治療
3	小児歯科診療における歯科衛生士の役割(1) (診察検査時の業務・齲蝕予防・ブラークコントロール)
4	小児歯科診療における歯科衛生士の役割(2) (診療補助・保存修復 ラバーダム防湿・コンポジットレジン充填・インレー修復・乳歯冠・コンポジットレジン冠)
5	小児歯科診療における歯科衛生士の役割(3) (歯内療法 歯髄鎮静法・歯髄切断法・抜髄法・感染根管治療)
6	小児歯科診療における歯科衛生士の役割(4) (外科的処置 抜歯・外傷歯の処置・咬合誘導)
7	小児の口腔保健管理
8	まとめ
9 特別講義	ラバーダム模型実習

8. 障害者歯科Ⅱ

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	今渡 隆成
授 業 科 目 概 要	障害者の特性を把握し、障害の種類と歯科の特徴を理解する。障害者、高齢者と有病者の総合的な歯科医療における歯科衛生士の役割とその知識・技術について学習をする。
目 的	障害者の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	様々な障害の種類と成り立ちを学び、障害者の特徴を理解する。 歯科治療時における注意点を学び、歯科衛生士としての役割を学ぶ。
成 績 評 価 方 法	1. 筆記試験 2. 講義への取り組み方、出席点、学習態度 以上により総合的に評価し可否を判定する。
教 材	歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学 第2版（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	3 章 障害者の歯科医療と行動調整 行動療法（行動変容法）、体動のコントロール、薬物的行動調整法
2	4 章 健康支援と口腔衛生管理 障害者本人や介助者が行う口腔のケアの支援、専門的口腔ケア
3	5 章 リスク評価と安全管理 障害者歯科におけるリスク評価、障害別のリスクと対応、医療安全管理体制、感染制御体制
4	6 章 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割 摂食嚥下リハビリテーションとは、摂食嚥下障害と口腔管理、摂食嚥下障害と栄養管理
5	摂食嚥下障害の評価法、摂食機能療法、小児期の摂食嚥下障害への対処法、成人期・老年期の摂食嚥下障害の評価と対処法
6	7 章 地域における障害者歯科 障害者歯科と地域医療連携、障害者歯科と関連職種、保険・医療・福祉のネットワーク
7	8 章 障害者歯科における歯科衛生過程
8	まとめ

9. 高齢者歯科Ⅱ

1 単位（必修）

第2学年 （15時間）

担 当 教 員 名	小野 智史
授 業 科 目 概 要	高齢者の身体的、精神的特性、さらに口腔の特性を把握、理解する。 高齢者の歯科診療および口腔保健管理における歯科衛生士の役割とその実際について学習する。
目 的	高齢者の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	高齢者の歯科診療の歯科診療補助時の実際、留意点、および口腔保健管理における実際、留意点について学習し理解する。
成 績 評 価 方 法	講義の出席点、授業態度、および筆記試験結果を総合的に評価し可否を判定する。
教 材	歯科衛生学シリーズ 「高齢者歯科学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	Ⅲ編 高齢者の状態の把握 3章 高齢者の栄養状態 4章 高齢者の薬剤服用
2	Ⅳ編 口腔ケア 1章 高齢者に対する口腔ケア
3	Ⅳ編 口腔ケア 2章 有病高齢者への口腔ケア
4	Ⅳ編 口腔ケア 3章 要介護高齢者への口腔ケア
5	Ⅴ編 摂食、嚥下リハビリテーション 1章 高齢者のリハビリテーションの概要
6	Ⅴ編 摂食、嚥下リハビリテーション 2章 摂食、嚥下の評価と対応
7	Ⅴ編 摂食、嚥下リハビリテーション 2章 摂食、嚥下の評価と対応
8	まとめ

10. 歯科麻酔学・有病者歯科医療

1 単位（必修）

第2学年（15時間）

担 当 教 員 名	詫間 滋
授 業 科 目 概 要	歯科治療は痛みを伴うことが少なくなく、患者にとって大きな精神的・身体的ストレスとなる。特に有病者においては、そのストレスが生体の恒常性（ホメオスタシス）を破綻させる誘因となり、場合によっては患者が生命の危機にさらされる可能性がある。歯科麻酔学は、歯科治療に伴う侵襲からいかに患者を守り、いかに偶発症を未然に防ぐか、そして、いかに患者の心身の安全を確保するかを考える学問である。
目 的	全身状態の評価に必要な基礎知識を学び、バイタルサインを把握するための生体情報モニターの取り扱いを理解する。日常の歯科臨床で遭遇する頻度が高い全身疾患や、歯科治療恐怖症・異常絞扼反射を理解し、また歯科治療の侵襲を制御するための局所麻酔法・全身管理（精神鎮静法・全身麻酔法）の概要、必要な薬剤、器材、使用方法を学び、起こりうる偶発症に歯科衛生士として適切に対処できるための知識を習得する。
学 習 目 標	・バイタルサインおよび生体情報モニターの取り扱いが説明できる。 ・局所麻酔法に必要な機材・薬剤、使用方法、および起こりうる偶発症、その対処法が説明できる。 ・全身管理（精神鎮静法、全身麻酔法）の概要、使用する器材・薬剤を説明できる。 ・代表的な全身疾患の概要と、歯科治療における留意点を説明できる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教 材	歯科衛生士学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	歯科麻酔学の概念・歯科麻酔学とは？
2	呼吸・循環の生理 バイタルサイン・モニタリング
3	局所麻酔法
4	精神鎮静法
5	全身麻酔法
6	歯科治療時の全身的偶発症
7	歯科治療恐怖症・異常絞扼反射
8	有病者の歯科治療

11. 歯科予防処置論Ⅱ（実務教員による講義）

1 単位（必修）

第2 学年（15 時間）

担 当 教 員 名	中村 麻希
授 業 科 目 概 要	本科目では、歯科衛生士が行う歯科予防処置に必要な知識として、口腔内の状態を把握するための歯周組織の各種検査および評価方法について学ぶ。プロービングデプス（PPD）、プロービング時出血（BOP）、臨床的アタッチメントレベル（CAL）、根分岐部病変、付着歯肉幅、歯の動揺度などの歯周検査の目的と方法を理解し、口腔内の状態を適切に評価するための基礎的知識を修得する。 さらに、歯科衛生士による歯科予防処置として、機械的スケーラーおよびキュレットタイプスケーラー（グレーシー、ユニバーサル）の特徴と操作法、歯面清掃および歯面研磨の目的と方法、スケーラーのシャープニングについて学ぶことで、歯科予防処置の理論的基礎を理解し、臨床実習および歯科予防処置実習へとつながる知識の習得を目的とする。
目 的	歯周組織の状態を把握するための各種検査方法および使用器具について理解するとともに、歯科衛生士が行う歯科予防処置としてのスケーリング、歯面清掃および歯面研磨に関する基本的知識を修得することを目的とする。
学 習 目 標	【一般目標】 口腔内の状態を把握するための歯周組織の各種検査および評価方法について理解する。また、歯科衛生士が行う歯科予防処置としてのスケーリング、歯面清掃、歯面研磨およびシャープニングに用いる器具の種類や特徴、基本的操作法について理解し、歯科予防処置の理論的基礎を修得する。 【到達目標】 1. 歯周組織の状態を評価する各種検査（PPD、BOP、CAL、根分岐部病変）の目的と方法を説明できる。 2. 付着歯肉幅および歯の動揺度の評価方法を説明できる。 3. 歯周検査に使用する主な器具の名称と用途を識別できる。 4. 歯科衛生士が行う歯科予防処置の役割を理解できる。 5. 機械的スケーラーの種類と特徴および操作法を説明できる。 6. キュレットタイプスケーラー（グレーシー、ユニバーサル）の特徴と用途を識別できる。 7. キュレットタイプスケーラーの基本的操作法を理解できる。 8. 歯面清掃および歯面研磨の目的と方法を説明できる。 9. スケーラーのシャープニングの目的と基本の手順を理解できる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2 版（医歯薬出版） プリント
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	口腔の器質的問題の把握：歯周組織の各種検査と使用器具（PPD、BOP、CAL、根分岐部病変）
2	口腔の器質的問題の把握：歯周組織の各種検査（付着歯肉幅、歯の動揺度）
3	歯科衛生介入としての歯科予防処置：機械的スクレーラーの種類と特徴、基本的操作法
4	歯科衛生介入としての歯科予防処置：キュレットタイプスクレーラーの種類と特徴（グレーシー、ユニバーサル）
5	歯科衛生介入としての歯科予防処置：キュレットタイプスクレーラーの操作法①（グレーシー、ユニバーサル）
6	歯科衛生介入としての歯科予防処置：キュレットタイプスクレーラーの操作法②（グレーシー、ユニバーサル）
7	歯科衛生介入としての歯科予防処置：歯面清掃および歯面研磨
8	歯科衛生介入としての歯科予防処置：スクレーラーのシャープニング まとめ

12. 歯科予防処置実習Ⅱ（実務教員による講義・実習）

2単位（必修）

第2学年（60時間）

担当教員名	中村 麻希 安藤 貴美
授業科目概要	マネキン上で習得した歯石除去技術を口腔内で実践し、各種器具の使用法や術前後の処置、器材の後始末、メンテナンスなどについて習得する。
目的	歯石除去を口腔内で実践するために、歯石除去技術の向上を図り、患者の反応を見ながら施術する習慣を身につけさせる。
学習目標	1. マネキン上でキュレット操作ができる。 2. 相互実習により、鎌型スケーラーを使用して歯石除去ができる。 3. 相互実習により、歯面研磨ができる。 4. 相互実習により、歯周検査ができる。 5. 相互実習により、パワースケーラーを使用して歯石除去ができる。 6. 個々の口腔内に適した方法で歯石除去ができる。 7. 歯石除去後のメンテナンスができる。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、実技試験、課題レポート、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版） プリント配布
留意事項	注）授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す

授業計画

回	内 容
1	キュレット操作に使用する器械器具 顎模型上で実習
2	歯石除去 マネキン実習（キュレット操作、ホームポジション）
3. 4	歯石除去 マネキン実習（キュレット操作、上顎前歯部）
5. 6	歯石除去 マネキン実習（キュレット操作、下顎前歯部）
7. 8	歯石除去 マネキン実習（キュレット操作、上顎臼歯部・1）
9. 10	歯石除去 マネキン実習（キュレット操作、上顎臼歯部・2）
11. 12	歯石除去 マネキン実習（キュレット操作、下顎臼歯部・1）
13. 14	歯石除去 マネキン実習（キュレット操作、下顎臼歯部・2）
15～24	相互実習 歯周組織検査 鎌型スケーラー 歯面研磨・口腔内洗浄
25	歯石除去用器械器具について 超音波スケーラー、エアスケーラーの原理と構成、特徴、使用方法 歯面清掃器の特徴、使用方法
26～29	相互実習 超音波スケーラー、エアスケーラー
30	総括・復習

13. 歯科保健指導論Ⅱ (実務教員による講義)

1 単位 (必修)

第2 学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	及川 佑季子
授 業 科 目 概 要	ライフステージの特性を理解し、歯や口腔については勿論の事、総合的な健康への適切な支援を行う必要がある。配慮を要する方の特徴と注意事項、歯科衛生介入について学ぶ。 医療、介護、福祉などの現場において多職種と連携することで効果的な健康教育ができる。地域で活動する歯科衛生士の役割を理解し、多職種と連携して地域歯科保健の推進が出来るように基礎的知識を学ぶ。
目 的	配慮を要する方への歯科衛生介入ができるようになるための基礎知識を習得する。 地域歯科保健活動における健康教育ができるようになるための基礎知識を習得する。
学 習 目 標	① 対象者の情報が把握できる。 ② 要介護高齢者の特徴を説明し、歯科衛生介入を実施できる。 ③ 障害児者の特徴を説明し、歯科衛生介入を実施できる。 ④ 大規模災害被災者の特徴を説明し、歯科保健活動を説明できる。 ⑤ 健康教育の対象と場の特徴を概説できる。 ⑥ 健康教育の評価を説明できる。 ⑦ 健康教育活動の方法を説明できる。 ⑧ 健康教育に必要な情報を収集できる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2 版 (医歯薬出版)、プリント
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	要介護高齢者 大規模災害被災者
2	地域歯科保健活動の健康教育
3	訪問歯科保健活動に必要な知識 留意すべき全身疾患と口腔衛生管理
4	訪問歯科保健活動に必要な知識 口腔衛生管理の流れ、必要な器具について
5	摂食嚥下リハビリテーション 口腔機能低下症について 実習（とろみ茶体験、咀嚼機能検査、スポンジブラシ）
6	摂食嚥下リハビリテーション 口腔機能管理について（マナボット見学実習） 間接訓練、直接訓練
7	相互実習 片麻痺患者の口腔衛生管理実習
8	相互実習 片麻痺患者の口腔衛生管理実習

14. 歯科保健指導実習Ⅱ（実務教員による講義・実習）

2単位（必修）

第2学年

（60時間）

担当教員名	山田 早希 安藤 貴美
授業科目概要	歯科保健指導論で学んだ内容を基礎として、対象別、症例別歯科保健指導の実際について示し、生涯を通じた歯科口腔管理ができる指導能力を習得させる。
目的	対象別、症例別歯科保健指導ができるようになる。 症例の中の具体的問題点を抽出して、その問題解決に適する技法を具体的に検討できるようになる。
学習目標	*専門的・基礎的知識を整理し、症例分析に役立てることができる *対象別の歯科保健の知識がわかる *それぞれ対象別の問題点を理解し、個人に適した指導計画を立てることができる *指導に必要とされる媒体などを正しく選択できる *カウンセリング技法を理解し、バラカウンセラーとして活用できる *主事の歯科医師の指導方針を把握することができる *患者や相談者の訴えを正確にとらえることができる *全身状態や口腔の状態の特徴をつかむことができる *イニシャルプレパレーションの目的と定義がわかる
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、実技試験、課題レポート、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）、プリント
留意事項	注）授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画

【第2学年】

回	内 容
1、2	面接・問診法実習、コミュニケーショントレーニング
3	診療録、問診事項検討実習
4、5	初診時面接法実習 保健指導時面接法実習

回	内 容
6～9	相互実習 ブラッシング指導モデル実習
10、11	口腔内写真撮影法
12～15	口腔内写真撮影実習
16、17	症例検討法実習（１）（２） 下顎大臼歯にブリッジ装着のケース、部分床義歯装着のケース
18、19	症例検討法実習（３）（４） 高度な分岐部病変を有する歯周疾患のあるケース、強い指しゃぶりの習慣があるケース
20、21	症例検討法実習（５）（６） 第一大臼歯が崩出途上にあるケース、甘味嗜好が強く、う食が多発しているケース
22～24	保健指導話法実習
25～27	小集団指導法実習 発声・朗読法実習
28～30	小集団用講和台本作成法実習

15. 歯科診療補助論Ⅱ (実務教員による講義)

1 単位 (必修)

第2学年 (15 時間)

担 当 教 員 名	石王 歩
授 業 科 目 概 要	臨地・臨床実習に臨む前段として必要な基礎知識 (器具・器材) を学び、術者との共同動作や対面行為の実際について学ぶ。
目 的	臨地・臨床実習の概要を知り診療補助に必要な器具・器材を学び安全な操作ができる。
学 習 目 標	〈到達目標〉 歯科材料の基本的性質、用途、取扱いについて科学的に理解し安全に使用できる 臨地・臨床実習の実際を知り、主体的に学ぶことができる 〈行動目標〉 ・臨地・臨床実習での器具・器材をレポートで記載することができる ・相手から求められる事を理解し実行できる ・「主体的に学ぶ」ということを様々な事例から理解できる ・診療中の偶発事故の防止および対処法の説明ができる
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論 第2版」 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 「歯科材料」 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 「歯科機器」 (医歯薬出版) 新人歯科衛生士・歯科助手ポケットマニュアル 第2版 (医歯薬出版) 適時資料配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	歯科器具・器材 歯科保存 1
2	歯科器具・器材 歯科保存 2
3	歯科器具・器材 歯科補綴 1
4	歯科器具・器材 歯科補綴 2
5	歯科器具・器材 歯科矯正 1
6	歯科器具・器材 歯科口腔外科 1
7	歯科器具・器材 歯科口腔外科 2
8	まとめ

16. 臨床検査法

1 単位（必修）

第 2 学年 （15 時間）

担 当 教 員 名	本間 将一 杉田 久子 山田 早希
授 業 科 目 概 要	歯科診療補助を行う際の全般的な知識と 歯科衛生士に最小限必要な臨床検査の方式を習得する。
目 的	臨床検査の方法を学び、その正常値を学習し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	臨床検査 ① 検査と歯科衛生士の役割を理解する。 ② 検査の種類を学ぶ。 ③ 生体検査（体温・脈拍・血圧・経皮的動脈血酸素飽和度）の方法を理解する。 ④ 尿の一般知識と尿検査の意味を理解する。 ⑤ 採血法と血液検査の知識を得る。 ⑥ 血液型検査の方法を理解する。 ⑦ 貧血検査・出血性素因検査・感染症検査について理解する。 ⑧ 肝機能検査の最低限の知識を修得する。 ⑨ 糖尿病検査の知識を得る。 ⑩ 病理検査について理解する。 ⑪ 口腔領域における各種臨床検査の方法を理解する。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「臨床検査」（医歯薬出版） 適時資料配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	1 章 臨床検査とは (1) 臨床検査の倫理と安全性 (2) 臨床検査はなぜ必要か (3) どんな検査があるのか (4) 検査成績の読み方 2 章 生体検査 (生理機能検査) (1) 体温検査 (2) 脈拍検査
2	(3) 血圧検査 (4) 心機能検査 (5) 肺機能検査 (6) 筋電図検査 (7) 脳波検査 (8) 血中酸素濃度検査 3 章 検体検査 (1) 血液を用いる検査 1.血液検査
3	2.血液凝固・線溶系検査 3.生化学検査 4.免疫・血清検査 5.血液型検査 6.その他の検査
4	(2) 感染症検査 (3) 病理検査 4 章 口腔領域の臨床検査 (1) 口臭検査 (2) 味覚検査 (3) 歯科金属アレルギーの検査
5	(4) 舌の検査 (5) 口腔粘膜の検査 エックス線写真検査 マイクロスコープによる検査
6	バイタルサイン測定実習
7	バイタルサイン測定実習
8	まとめ

17. 歯科診療補助実習Ⅱ（実務教員による講義・実習）

3単位（必修）

第2学年（90時間）

担当教員名	益田 友美 及川 佑季子 前田 萌
授業科目概要	歯科診療補助で学習した基礎知識をもとに、歯科器材の取り扱い方、術者との共同動作、各分野における処置別歯科診療補助法を習得させる。学習した歯科診療補助技術の熟練度を確認し、重要項目について総合的に実習・講義を行う。
目的	これまでの知識を関連づけて、歯科診療補助論での基本知識をもとに歯科衛生士として必要な知識と技術を習得する。 卒業後、即戦力となって活躍できるための技能を身に付ける。
学習目標	・歯周治療、歯周外科の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・光重合型コンポジットレジン充填の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・根管充填の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・清潔・不潔の概念を理解し、困難抜歯やおもな小手術の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・小児歯科治療の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・麻酔抜髄・根管治療の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・義歯装着時のセッティングができる。 ・寒天とアルジネート印象材の特性を理解し、連合印象採得の準備と説明ができる。 ・相互で連合印象採得ができる。 ・暫間被覆冠の目的を理解し、準備と手順が説明できる ・暫間被覆冠を模型上で製作できる。 ・歯科器械のメンテナンスができる。 ・個々の患者にあった、適切な介助ができる。 ・就業にあたっての心構えをもてる。
成績評価方法	1. 筆記試験 2. 実技試験 3. 実習課題提出物 4. 講義への取組み、学習態度、出席状況 以上により総合評価を行い可否判定する。
教材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論 第2版」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科材料」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科機器」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「保存修復学・歯内療法学」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科補綴学」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「口腔外科学・歯科麻酔学 第2版」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「小児歯科学」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科矯正学 第2版」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科放射線学 第2版」（医歯薬出版） 適時資料配布
留意事項	注）授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内 容
1～5	セッティング実習 保存修復・コンボジットレジン
6～10	セッティング実習 保存修復・麻酔抜髄、感染根管
11、12	セッティング実習 保存修復・根管充填
13～15	セッティング実習 保存修復・メタルインレー、メタルクラウン、ブリッジ
16～19	相互実習 アルジネート片側印象 ワックスの取り扱い 咬合採得
20、21	歯科用材料の取り扱い セメント練和
22～27	相互実習 アルジネート全顎印象・石膏注入（スタディモデル作製）・咬合採得
28～35	マネキン実習 寒天印象材、アルジネート連合印象・アルジネート機械練和・レジン系仮封材
36、37	暫間被覆冠作製実習 右上1番 右上5番
38～41	歯科用材料の取り扱い リベース材・ティッシュコンディショナー・ゴム質印象材
42～45	歯科用器具の取り扱い 外科器具・縫合針・持針器・矯正器具

18. 臨地実習・臨床実習Ⅱ（実務教員による実習）

12単位(必修)

第2学年（540時間）

担当教員名	中村 麻希 益田 友美 安藤 貴美 山田 早希 石王 歩 及川 佑季子 前田 萌 松神 美翔子
授業科目概要	歯科衛生士の業務である歯科予防処置、各診療科目における歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護について臨地、臨床の場で実習する。
目的	医療従事者としての人格を養う。 これまでに習得した知識、技術（歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護）を、臨地・臨床の場において実践できる能力を養う。
学習目標	① 患者や歯科医師、スタッフから信頼され好感を持たれるよう、医療人として清潔感のある身だしなみを整えることができる。 ② 患者や歯科医師、スタッフと良い人間関係をつくることができるよう、正しい日本語、正しい発音で挨拶や話しができる。また、相手の人格を尊重し、いたわりの気持ちを持った態度や行動がとれる。 ③ 受付応対事務ができる。 ④ 歯科予防処置ができる。 ⑤ 年代や状況等、個々に対応した保健指導ができる。 ⑥ 予診における歯科診療補助ができる。 ⑦ 歯科保存治療時の歯科診療補助ができる。 ⑧ 歯周治療時の歯科診療補助ができる。 ⑨ 補綴治療時の歯科診療補助ができる。 ⑩ 口腔外科治療時の歯科診療補助ができる。 ⑪ 矯正歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ⑫ 小児歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ⑬ X線撮影の歯科診療補助ができる。 ⑭ 障害者歯科治療時の診療補助ができる。 ⑮ 訪問歯科治療時の診療補助ができる。 ⑯ 訪問歯科衛生指導ができる。 ⑰ 介護老人施設入所者に対して歯科口腔介護ができる。 ⑱ 公衆衛生現場において集団を対象とした歯科保健教育ができる。 ⑲ 歯科技工所の役割、業務が理解できる。
成績評価方法	1. 実習記録、レポート 2. 臨地実習・臨床実習への取組みと実習態度 3. 出席状況 以上により総合評価を行い合否判定する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	【教科書】 これまでに使用したすべての教科書、プリント
留意事項	注）授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す。 臨地・臨床実習に必要なルールを遵守しない、身だしなみや礼儀作法が整わない場合は、担当教員の判断で中断する場合がある。

授業計画

回	内 容
1	幼稚園、保育園 実習
2	介護老人保健施設、特別養護老人ホーム 実習
3	訪問歯科診療（往診） 実習
4	歯科技工所 見学実習
5	事務、受付 実習
6	消毒、滅菌業務 実習
7	麻酔下治療（全身麻酔、静脈内鎮静法 等） 見学実習
8	有床歯科病棟 実習
9	歯科診療補助 ＜歯科保存治療＞
10	歯科診療補助 ＜歯周治療＞
11	歯科診療補助 ＜歯科補綴治療＞
12	歯科診療補助 ＜口腔外科・歯科麻酔治療＞
13	歯科診療補助 ＜矯正歯科治療＞
14	歯科診療補助 ＜小児歯科治療＞
15	歯科診療補助 ＜X線撮影・現像・管理＞
16	歯科診療補助 ＜障害者歯科治療、高齢者歯科治療＞
17	歯科保健指導 ＜対象者別個別歯科保健指導＞
18	歯科予防処置 ＜予防の歯石除去、歯面研磨、フッ化物応用＞

19. 医療情報処理 (実務教員による講義)

2単位 (選択)

第2学年 (30時間)

担 当 教 員 名	中村 麻希
授 業 科 目 概 要	基礎的な診療におけるカルテの内容を理解し、臨床の場でカルテ管理・患者管理などスムーズに対応できる知識と技術を習得する。
目 的	基礎的なカルテの内容を理解し、診療の流れと関連させることができる。
学 習 目 標	基礎的な診療の流れを理解できる 医療保険制度、診療報酬請求について理解できる 診療の流れとカルテ内容を関連づけて理解できる
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教 材	【教科書】 資料配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	カルテの基礎知識 カルテ：画像診断
2	カルテ：歯周治療
3	カルテ：歯周治療
4	カルテ：光C R F
5	カルテ：光C R F
6	カルテ：インレー形成～装着
7	カルテ：インレー形成～装着
8	カルテ：麻酔抜髄～根管充填
9	カルテ：麻酔抜髄～根管充填
10	カルテ：感染根管処置～根管充填
11	カルテ：感染根管処置～根管充填
12	カルテ：支台築造～歯冠修復物
13	カルテ：支台築造～歯冠修復物
14	カルテ：B r 印象～装着
15	総合問題・まとめ

シラバス

2026年度 夜間部3年



学校法人 札幌青葉学園

✧ 北海道歯科衛生士専門学校

目次

	科目名称	ページ
	歯科衛生士学校教育課程	P2
	授業実施計画表	P3
1	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	P4
2	衛生行政・社会福祉	P6
3	小児歯科学	P8
4	障害者歯科・高齢者歯科－障害者歯科	P10
5	障害者歯科・高齢者歯科－高齢者歯科	P11
6	歯科予防処置実習Ⅲ	P12
7	歯科保健指導実習Ⅲ	P14
8	摂食機能訓練法	P16
9	臨床検査法	P18
10	歯科診療補助実習Ⅲ	P20
11	臨地実習・臨床実習Ⅲ	P22
12	チームケア	P24
13	総合学習Ⅰ	P26
14	総合学習Ⅱ	P27
15	総合学習Ⅲ	P28
16	総合学習Ⅳ	P29

教育課程 夜間部									
分野	教育内容	基準 単位数	開講 単位数	科目名称	単位数	学年別授業時間数			年間授業 時間数
						1	2	3	
基礎 分野	科学的思考の基礎	10	10	生物学・組織発生学	2	30			30
	人間と生活			生化学	2	30			30
				教養基礎	1	15			15
				栄養学	1		15		15
				心理学	1		15		15
				英語	1		15		15
				情報処理	1		15		15
				接遇作法	1		15		15
小計	10	10		10	75	75	0	150	
専門 基礎 分野	人体の構造と機能	15	15	解剖学・口腔解剖学	3	45			45
	歯・口腔の構造と機能			生理学・口腔生理学	3	45			45
				口腔組織発生学	1	15			15
				歯牙解剖学	2	30			30
	疾病の成り立ちと回復の促進			薬理学・口腔薬理学	2	30			30
				微生物学・口腔微生物学	2	30			30
	病理学・口腔病理学			2		30		30	
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	7	7	口腔衛生学・歯科衛生統計Ⅰ	2	30			30
				口腔衛生学・歯科衛生統計Ⅱ	1		15		15
				衛生学・公衆衛生学Ⅰ	1		15		15
				衛生学・公衆衛生学Ⅱ	1			15	15
				衛生行政・社会福祉	2			30	30
	小計	22	22		22	225	60	45	330
専門 分野	歯科衛生士概論	2	2	歯科衛生士概論	1	15			15
	臨床歯科医学	8	9	歯科臨床概論	1	15			15
				歯科保存学Ⅰ	1	15			15
				歯科保存学Ⅱ	1		15		15
				歯科補綴学Ⅰ	1	15			15
				歯科補綴学Ⅱ	1		15		15
				歯周治療学	1		20		20
				口腔外科学	1		20		20
				矯正歯科学	1		20		20
				小児歯科学	1			20	20
	障害者歯科・高齢者歯科	1			20	20			
	歯科予防処置論	8	8	う蝕予防処置法	1	15			15
				歯科予防処置論Ⅰ	1	15			15
				歯科予防処置論Ⅱ	1		15		15
				歯科予防処置実習Ⅰ	1	30			30
				歯科予防処置実習Ⅱ	2		60		60
				歯科予防処置実習Ⅲ	2			60	60
	歯科保健指導論	7	7	歯科保健指導論Ⅰ	1	15			15
				歯科保健指導論Ⅱ	1		15		15
				歯科保健指導実習Ⅰ	1	30			30
				歯科保健指導実習Ⅱ	2		60		60
				歯科保健指導実習Ⅲ	1			30	30
				摂食機能訓練法	1			15	15
	歯科診療補助論	9	9	歯科診療補助論Ⅰ	1	15			15
				歯科診療補助論Ⅱ	1		15		15
				歯科放射線学	1		15		15
				臨床検査法	1			15	15
歯科診療補助実習Ⅰ				2	60			60	
歯科診療補助実習Ⅱ				2		60		60	
歯科診療補助実習Ⅲ				1			30	30	
臨地実習・臨床実習	20	20	臨地実習・臨床実習Ⅰ	4	180			180	
			臨地実習・臨床実習Ⅱ	9		405		405	
			臨地実習・臨床実習Ⅲ	7			315	315	
小計	54	55		55	420	735	505	1660	
選択必修 分野	7単位以上を選択	7	9	医療情報処理	1		15		15
				チームケア	1			15	15
				総合学習Ⅰ	1			15	15
				総合学習Ⅱ	2			30	30
				総合学習Ⅲ	2			30	30
	総合学習Ⅳ	2			30	30			
小計	7	9		9	0	15	120	135	
合計	93	96		96	720	885	670	2275	
必修科目単位数(時間数)					87	720	870	550	2140
選択科目単位数(時間数)					9	0	15	120	135
選択科目のうち卒業に必要な単位数(時間数)					7	0	105		105
※必要に応じて「特別講義」を実施する。									
単位について 講義：1単位15～20時間 基礎実習：1単位30時間 臨地・臨床実習：1単位45時間									

授 業 実 施 計 画 表(夜間部)

科目 学則で定める科目名称	区分	授業 形式	学則等規定		第3学年											
			単位数	時間数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
衛生学・公衆衛生学Ⅱ	必修	講義	1	15												
衛生行政・社会福祉	必修	講義	2	30												
小児歯科学	必修	講義	1	20												
障害者歯科・高齢者歯科	必修	講義	1	20												
歯科予防処置実習Ⅲ	必修	実習	2	60												
歯科保健指導実習Ⅲ	必修	実習	1	30												
摂食機能訓練法	選択 必修	講義	1	15												
臨床検査法	必修	講義	1	15												
歯科診療補助実習Ⅲ	必修	実習	1	30												
臨地実習・臨床実習Ⅲ	必修	実習	7	315												
チームケア	選択 必修	講義	1	15												
総合学習Ⅰ	選択 必修	講義	1	15												
総合学習Ⅱ	選択 必修	講義	2	30												
総合学習Ⅲ	選択 必修	講義	2	30												
総合学習Ⅳ	選択 必修	講義	2	30												
			26	670												

1. 衛生学・公衆衛生学Ⅱ

2 単位（必修）

第 3 学年 1 単位 （15 時間）

担 当 教 員 名	兼平 孝
授 業 科 目 概 要	人の健康と疾病予防の概念について学ぶ 人の健康問題とそれに関わる環境について学ぶ 疫学的手法を学び、疾病・異常の予防対策について学ぶ 地域住民の健康づくりを支援する社会の仕組みや方法について学ぶ
目 的	衛生学・公衆衛生的な考え方や知識を活用し、集団あるいは地域社会の健康レベルを増進することを目的とする。
学 習 目 標	【一般目標】 ・自分と家族の健康を守る能力の向上をはかるとともに、医療人として、地域の人々の健康を守る人（職種）であるという意識の向上をはかる ・日常生活や予防の視点から、健康増進や、疾病の原因と予防について理解し、健康問題とそれに関わる要因についての理解を深めて問題解決に必要な判断力と行動力を養う ・地域住民の健康づくりを支援する社会の仕組みや組織、その方法を習得する 【到達目標】 ・広い視野を持って、健康にかかわる社会の出来事（ニュース）に関心を持つ ・健康や病気には多くの要因が関わることを知り、その知識と理解を深める ・日常の生活習慣や予防の視点から、自分の健康に留意し、生活し、自己の健康を管理することができる ・地域保健活動に参加していく上で必要な基礎知識を習得する
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・2 年次 1 単位、3 年次 1 単位の割合で最終評価とする ・「秀」：90 点以上、「優」：80 点以上、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学」 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 3 保健情報統計学」 【参考図書】 シンプル衛生公衆衛生学（南江堂） スタンダード衛生公衆衛生学（学建書院）
留 意 事 項	

授業計画：第3学年

回	内 容
1、2	食品と健康・1 国民栄養の現状と問題点、健康づくりのための各種指針
3	食品と健康・2 機能性食品、食中毒、食品添加物
4、5	地域保健 地域保健とは、地域保健の組織、地域の保健計画、住民の生活、地域特性、地域保健活動の進め方、健康日本21
6	母子保健 母子保健の意義、母子保健の現状、母性保健管理、小児保健管理、母子保健対策、母子歯科保健との関連
7、8	学校保健 学校保健の意義および概要、学校保健の活動とその組織
9	成人・老人保健・1 成人・老人保健の現状と課題、8020運動との関連
10、11	成人・老人保健・2 成人保健と老人福祉対策
12	産業保健 産業保健の概念、職業性疾病、産業保健管理、産業保健活動
13、14	精神保健 心の健康と障害、ライフサイクルからみた精神保健
15	講義の補追

2. 衛生行政・社会福祉

2 単位（必修）

第 3 学年 （30 時間）

担 当 教 員 名	山本 貴文
授 業 科 目 概 要	健康で文化的な生活を営むための社会支援、保険・医療・福祉の動向や社会保障制度、高齢化社会における福祉について概説する。
目 的	歯科衛生行政や社会保障の諸制度を学ぶ際にそれらの基礎となる行政の仕組みや取り組みを理解し、保健、医療、福祉での役割を学ぶ。
学 習 目 標	少子高齢化社会を迎え、医療需要が増大し多様化してきている。そこで衛生行政の仕組みや保健医療、さらに福祉関係の法規について学び、社会福祉や社会保険制度における医療保障の諸政策について理解を深めることを目標とする。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 2 保健・医療・福祉の制度」（医歯薬出版） 配布プリント
留 意 事 項	健康で文化的な生活を営むための社会支援、保険・医療・福祉の動向や社会保障制度、高齢化社会における福祉について概説する。

授業計画：講義

回	内 容
1, 2	社会保障制度（概論） わが国の社会保障制度，社会保障の目標と機能，社会保障費の給付と国民の負担 ライフステージ別の社会保障制度，世界の社会保障制度
3, 4	衛生行政と関連法 1 衛生行政の目的，衛生行政の組織、地域保健法、母子保健法
5, 6	衛生行政と関連法 2 学校保健安全法、労働安全衛生法
7, 8	衛生行政と関連法 3 高齢者の医療の確保に関する法律、後期高齢者医療制度
9, 10	衛生行政と関連法 4 医療法、医薬品医療機器等法
11, 12	歯科三法 1 歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法
13, 14	歯科三法 2 歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法
15, 16	健康とは 健康増進法、歯科口腔保健法 後期高齢者医療制度
17, 18	国が行う統計調査 国勢調査、人口動態統計調査、国民生活基礎調査、患者調査他
19, 20	医療経済 国民医療費
21, 22	社会保険 1 年金保険、労働者災害補償保険、雇用保険
23, 24	社会保険 2 医療保険
25, 26	社会保険 3 介護保険、地域包括ケアシステム、地域包括支援センター
27, 28	社会福祉 生活保護、児童と家族の福祉、障害者の福祉
29, 30	総復習

3.小児歯科学

1 単位（必修）

第 3 学年 （20 時間）

担 当 教 員 名	高崎 千尋
授 業 科 目 概 要	小児の成長発育および精神発達、小児の歯、歯列、咬合の発育、小児のう蝕の特徴と治療法、歯科的問題点、患児の対応法、正常な永久歯列を導くための装置、管理法を理解する。
目 的	小児の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	① 小児の成長発育を説明できる ② 歯の萌出と交換、歯列咬合の変化を説明できる ③ 小児の精神発達を理解し、年齢にあった対応ができる ④ 乳歯および永久歯のう蝕予防のための保健指導、処置ができる ⑤ 乳歯う蝕の特徴と乳歯の歯冠修復、歯内療法を説明できる ⑥ 小児の外科的処置および薬物療法を説明できる ⑦ 咬合誘導装置、口腔習癖除去装置の種類と意義を説明できる ⑧ 小児歯科の診療補助の前準備、術式、使用器材、処置後メンテナンスが説明できる ⑨
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90 点以上、「優」：80～89 点、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「小児歯科学」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1・2	小児歯科学概論 心身の発育
3・4	小児の生理的特徴 顔面頭蓋の発育 歯の発育とその異常
5・6	歯列・咬合の発育と異常 乳歯・幼若永久歯の特徴とう蝕
7・8	小児にみられる歯周疾患 小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患 小児歯科診療とその特徴 診察・検査・診断

回	内 容
9・10	母親教室 小児歯科における麻酔法 小児歯科診療における歯科衛生士の役割（診療補助 保存修復） ラバーダム防湿・コンポジットレジン充填 メタルインレー修復・乳歯冠 コンポジットレジン冠
11・12	小児歯科診療における歯科衛生士の役割（診療補助 歯内療法） 歯髄鎮静法・歯髄切断法・抜髄法・感染根管治療 幼若永久歯の歯内療法
13・14	小児歯科診療における歯科衛生士の役割（診療補助 外科的処置、咬合誘導） 抜歯・外傷歯の処置 咬合誘導（各種誘導装置） フッ化ジアンミン銀
15・16	小児歯科診療における歯科衛生士の役割（診察検査時の業務、う蝕予防） プラークコントロール・フッ化物応用・シーラント 小児歯科における患者との対応法 障害児の歯科治療
17・18	小児の口腔保健管理 歯科診療室の管理・器材の管理 乳歯冠の取り扱い
19・20	まとめ

4.障害者歯科・高齢者歯科 ―障害者歯科―

1 単位（必修）

第 3 学年 （20 時間）

担 当 教 員 名	木村 幸文
授 業 科 目 概 要	障害者の現状を把握し、障害の種類と歯科的特徴を理解する。障害者、高齢者と有病者の総合的な歯科医療における歯科衛生士の役割とその実際面について学習をする。
目 的	障害者の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	様々な障害の種類と成り立ちを学び、障害者の特徴を理解する。 歯科治療時における注意点を学び歯科衛生士としての役割を学ぶ。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・障害者歯科 5 割、高齢者歯科 5 割で最終評価とする ・「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「障害者歯科学」（医歯薬出版）第 2 班
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1、2	障害者の現況 障害とは 障害者の歯科診療 行動調整、障害者歯科の特殊性
3、4	障害の種類と歯科的特徴
5、6	障害者歯科における歯科衛生士の役割 摂食・嚥下障害の対応
7、8	行動調整における歯科診療補助の実際 障害別の対応
9、10	障害者の口腔保健管理

5. 障害者歯科・高齢者歯科 ―高齢者歯科―

担 当 教 員 名	早瀬 正生 阿部 美也子
授 業 科 目 概 要	高齢者の身体的、精神的特性、さらに口腔の特性を把握、理解する。 高齢者の歯科診療および口腔保健管理における歯科衛生士の役割とその実際について学習する。
目 的	高齢者の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	高齢者の歯科診療の歯科診療補助時の実際、留意点、および口腔保健管理における実際、留意点について学習し理解する。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・障害者歯科5割、高齢者歯科5割で最終評価とする ・「秀」: 90点以上, 「優」: 80点以上, 「良」: 70～79点, 「可」: 60～69点, 「不可」: 59点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 (医歯薬出版)
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1、2	高齢者歯科の現状 高齢者の健康と疾病 高齢者と薬剤 高齢者の特性 高齢者を支える保健、医療、福祉の基盤 薬剤の情報とその重要性
3、4	高齢者の歯科診療における歯科衛生士の役割 高齢者の歯科診療における歯科衛生士の役割 診療時の問題と留意点 診療内容に応じた補助対応 高齢者との接し方 歯科診療室での介助
5、6	高齢者の歯科診療の実際と歯科診療補助 高齢者の口腔保健管理 高齢者の歯科保健指導の実際と留意点 バイタルサインとモニタリング 疾病状態を考慮した歯科診療補助時の留意点 感染予防 摂食機能療法 歯科衛生士による口腔保健管理 日常的な口腔の器質的、機能的ケアと義歯 歯科保健指導の実際 摂食・嚥下状態と食物物性の関連
7、8	要介護高齢者と歯科衛生士 訪問歯科保健指導の実際 口腔ケアの必要性和効果 歯科衛生士と訪問活動 介護保険制度と歯科保健医療とのかかわり 介護保険制度の仕組み 訪問歯科保健指導の基本的知識 在宅での訪問歯科保健指導の流れ
9、10	まとめ

6. 歯科予防処置実習Ⅲ（実務教員による講義・実習）

5単位（必修）

第3学年 2単位（60時間）

担当教員名	中村 麻希 中村 亜希子 藤田 愛
授業科目概要	本科目では、これまでに修得した歯科予防処置に関する知識および技術を基礎として、歯科衛生士が行う歯科予防処置の実践的技術の向上を目的とした実習を行う。模型実習ではキュレットスケーラーを用いた臼歯部のスケーリング操作を確認し、歯面形態および適切な器具操作について理解を深める。 また、これまでに学習した歯科予防処置の知識および技術を基礎として、歯科衛生士が行う歯科予防処置の実践的技術の習得を目的とした実習を行う。スケーラーのシャープニング実習として鎌型スケーラーおよびキュレットの研磨方法を学ぶとともに、相互実習を通して歯面清掃、歯周検査、歯面研磨、スケーリングなどの歯科予防処置の基本操作を確認する。また、ルーペの使用法について理解を深め、臨床における視野の確保や操作精度の向上を図る。さらに、国家試験前に歯科予防処置に関する内容の総復習を行い、知識と技術の整理および定着を図る。
目的	歯科予防処置に関する知識および技術を統合し、模型実習および相互実習を通して歯科予防処置の基本技術の精度向上を図るとともに、口腔内の状況に応じた適切な器具の選択および操作を理解する。さらに、歯周検査や歯面清掃、スケーリング、歯面研磨などの処置を安全かつ適切に実施できる実践力を高め、臨床において歯科衛生士として求められる歯科予防処置を総合的に応用できる能力を養う。
学習目標	【一般目標】 歯科予防処置に関する知識および技術を基礎として、模型実習および相互実習を通して歯科予防処置の基本的技術を実践的に修得するとともに、臨床において安全かつ適切に処置を行うための実践力を養う。 【到達目標】 1.キュレットスケーラーを用いた臼歯部のスケーリングについて、歯面形態および器具操作を理解し適切に実施できる。 2.鎌型スケーラーおよびキュレットのシャープニングの目的を理解し、刃部の状態を評価したうえで適切にシャープニングを実施できる。 3.歯面清掃器の特徴を理解し、口腔内の状況に応じて適切に歯面清掃を実施できる。 4.歯周検査の目的を理解し、正確な測定および記録を実施できる。 5.歯牙の形態的特徴を理解し、安全かつ適切なポジショニングと操作法でスケーリングを実施できる。 6.歯面研磨の目的および適応を理解し、適切な器具・材料を選択して歯面研磨を実施できる。 7.ルーペの使用法を理解し、適切な姿勢および視野を確保して歯科予防処置に活用できる。 8.歯科予防処置に関する知識および技術を統合し、国家試験対策として総合的に理解できる。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たしたものについて筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、実技試験、課題レポート、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版） プリント配布
留意事項	注）授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画：第3学年

回	内 容
1～22	キュレット操作（臼歯部）
23～25	シャープニング シャープニング器械器具、方法、手用研磨、ポイント式研磨
26～28	相互実習 歯面清掃器（エアポリッシャー） PMT C
29～34	相互実習 鎌型スケーラー、パワースケーラー
35～40	相互実習 歯面研磨・口腔内洗浄
41～46	相互実習（他学年合同実習） 歯周検査、TBI、スケーリング、歯面研磨
47～60	総復習

7. 歯科保健指導実習Ⅲ（実務教員による講義・実習）

4 単位（必修）

第3学年 1 単位 （30 時間）

担 当 教 員 名	菅原 和美 中村 亜希子 高嶋 美佳 藤田 愛 伊達 万惟子
授 業 科 目 概 要	歯科保健指導論で学んだ内容を基礎として、対象別、症例別歯科保健指導の実際について示し、生涯を通じた歯科口腔管理ができる指導能力を習得させる。
目 的	対象別、症例別歯科保健指導ができるようになる。 症例の中の具体的問題点を抽出して、その問題解決に適する技法を具体的に検討できるようになる。
学 習 目 標	① 専門的・基礎的知識を整理し、症例分析に役立てることができる。 ② 歯科衛生教育活動における歯科衛生士の役割を説明できる。 ③ 保育所、幼稚園に入所する乳幼児を対象とした歯科衛生教育ができる。 ④ 指導に必要とされる媒体など作成し歯科保健指導ができる。 ⑤ 患者や相談者の訴えを正確にとらえることができる。 ⑥ 全身状態や口腔の状態の特徴をつかむことができる。 ⑦ 歯ブラシや各清掃用具の選択と使用法の指導ができる。
成 績 評 価 方 法	・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・1 年次 1 単位、2 年次 1 単位、3 年次 2 単位の割合で最終評価とする ・「秀」：90 点以上、「優」：80 点以上、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版）第 2 斑 プリント配布
留 意 事 項	注）授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画：第3学年

回	内 容
1～23	地域歯科保健活動の実践 保育所、幼稚園を対象とした健康教育のための媒体作成
24～26	訪問歯科保健指導 高齢者・障害者等に対する口腔ケアや対応について
27～30	症例別 歯科保健指導

8. 摂食機能訓練法

1 単位（選択必修）

第3学年（15時間）

担 当 教 員 名	戸倉 聡
授 業 科 目 概 要	超高齢社会の中においては脳梗塞などの後遺症のため摂食機能低下がある患者が非常に多い。それらの人は義歯を形態的に直し、摂食嚥下機能訓練をすることで誤嚥性肺炎を防ぐことが出来るということを理解させる。同様に障害者にも摂食機能訓練が必要な患者が多いことを理解させる。
目 的	摂食機能療法を理解し、食事を与えるときに歯科医師の指示のもとで簡単な指導が出来るようにする。
学 習 目 標	1. 摂食・嚥下障害者の評価方法が説明できる 2. 摂食・嚥下のメカニズムが説明できる 3. 摂食・嚥下の機能障害について説明できる 4. 摂食・嚥下障害の評価ができる 5. 要介護高齢者の摂食能力と摂食状況・機能障害状況について説明できる 6. 摂食・嚥下と温度並びに味覚情報について説明できる 7. 食物の物性は味わいにどう影響するのかが説明できる 8. 摂食・嚥下障害に対する栄養調理の対応について説明できる 9. 在宅における摂食・嚥下障害への対応について説明できる
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第3版（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1、2	摂食・嚥下機能の基礎知識（1） 摂食・嚥下障害とは 摂食・嚥下にかかわる解剖学的知識
3	摂食・嚥下機能の基礎知識（2） 摂食・嚥下機能のメカニズム

回	内 容
4、5	摂食・嚥下機能の検査
6	摂食・嚥下機能の診断・評価
7、8	摂食・嚥下リハビリテーションの基礎知識
9	摂食・嚥下リハビリテーションの実際（１） 摂食・嚥下訓練の基礎知識
10、11	摂食・嚥下リハビリテーションの実際（２） 摂食・嚥下訓練の方法 間接訓練（基礎訓練）
12	摂食・嚥下リハビリテーションの実際（３） 摂食・嚥下訓練の方法 直接訓練（摂食訓練）
13、14	発達障害児における摂食・嚥下リハビリテーション
15	介護予防

9. 臨床検査法

1 単位（必修）

第3学年（15時間）

担 当 教 員 名	木村 幸文
授 業 科 目 概 要	歯科衛生士に最小限必要な臨床検査の方式を習得する。
目 的	臨床検査の方法を学び、その正常値を学習し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	①検査と歯科衛生士の役割を理解する。 ②検査の種類を学ぶ。 ③生体検査（体温・脈拍・血圧・経皮的動脈血酸素飽和度）の方法を理解する。 ④尿の一般知識と尿検査の意味を理解する。 ⑤採血法と血液検査の知識を得る。 ⑥血液型検査の方法を理解する。 ⑦貧血検査・出血性素因検査・感染症検査について理解する。 ⑧肝機能検査の最低限の知識を修得する。 ⑨糖尿病検査の知識を得る。 ⑩病理検査について理解する。 ⑪口腔領域における各種臨床検査の方法を理解する。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	歯科衛生学シリーズ 「臨床検査」（医歯薬出版）
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1、2	1 章 臨床検査とは （1）臨床検査の倫理と安全性 （2）臨床検査はなぜ必要か （3）どんな検査があるのか （4）検査成績の読み方
3	2 章 生体検査（生理機能検査） （1）体温検査 （2）脈拍検査

回	内 容
4、5	(3) 血圧検査 (4) 心機能検査 (5) 肺機能検査 (6) 筋電図検査
6	(7) 脳波検査 (8) 血中酸素濃度検査 3章 検体検査 (1) 血液を用いる検査 1.血液検査
7、8	2.血液凝固・線溶系検査 3.生化学検査
9	4.免疫・血清検査 5.血液型検査 6.その他の検査
10、11	(2) 感染症検査 (3) 病理検査
12	4章 口腔領域の臨床検査 (1) 口臭検査 (2) 味覚検査 (3) 歯科金属アレルギーの検査
13、14	(4) 舌の検査 (5) 口腔粘膜の検査 エックス線写真検査 マイクロスコープによる検査
15	まとめ

10. 歯科診療補助実習Ⅲ（実務教員による講義・実習）

5単位（必修）

第3学年 1単位（30時間）

担当教員名	菅原 和美
授業科目概要	これまでに学習した歯科診療補助技術の熟練度を確認し、重要項目について総合的に実習・講義を行う。
目的	卒業後、即戦力となって活躍できるための技能を身に付ける。
学習目標	・小児歯科治療の術式がわかり、的確な介助ができる。 ・相互で連合印象採得ができる。 ・暫間被覆冠の目的を理解し、準備と手順が説明できる ・暫間被覆冠を模型上で製作できる。 ・補綴物製作の流れを理解し、説明できる。 ・歯科器械のメンテナンスができる。 ・個々の患者にあった、適切な介助ができる。 ・就業にあたっての心構えをもてる。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・1年次2単位、2年次2単位、3年次2単位の割合で最終評価とする ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	【教科書】 歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論」第2版（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科材料」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「歯科機器」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「小児歯科学」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「矯正歯科学」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 「口腔外科学・歯科麻酔学」（医歯薬出版） 適時資料配布
留意事項	注）授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画：第3学年

回	内 容
1～8	歯科診療補助総合実習 上下顎印象採得・スタディモデル作製法
9～12	歯科診療補助総合実習 個人トレーの作成・義歯製作の流れ
13～18	歯科診療補助総合実習 歯肉圧排法
19～27	歯科診療補助総合実習 暫間被覆冠作製法
28～30	まとめ
特1・2・3	歯科診療補助総合実習 ホワイトニング法（オフィスブリーチ）

11. 臨地実習・臨床実習Ⅲ（実務教員による実習）

20単位（必修）

3学年 7単位（315時間）

担当教員名	中村 麻希 菅原 和美 中村 亜希子 高嶋 美佳 藤田 愛 伊達 万惟子
授業科目概要	歯科衛生士の業務である歯科予防処置、各診療科目における歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護について臨地、臨床の場で実習する。
目的	医療従事者としての人格を養う。 これまでに習得した知識、技術（歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護）を、臨地・臨床の場において実践できる能力を養う。
学習目標	・患者や歯科医師、スタッフから信頼され好感を持たれるよう、医療人として清潔感のある身だしなみを整えることができる。 ・患者や歯科医師、スタッフと良い人間関係をつくることができるよう、正しい日本語、正しい発音で挨拶や話ができる。また、相手の人格を尊重し、いたわりの気持ちを持った態度や行動がとれる。 ・受付応対事務ができる。 ・歯科予防処置ができる。 ・年代や状況等、個々に対応した保健指導ができる。 ・予診における歯科診療補助ができる。 ・歯科保存治療時の歯科診療補助ができる。 ・歯周治療時の歯科診療補助ができる。 ・歯科補綴治療時の歯科診療補助ができる。 ・口腔外科治療時の歯科診療補助ができる。 ・矯正歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ・小児歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ・X線撮影の歯科診療補助ができる。 ・高齢者とコミュニケーションをとることができる。 ・幼稚園児の発達段階がわかり、成長に合わせたコミュニケーションをとることができる。 ・障害者・高齢者歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ・訪問歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ・訪問歯科衛生指導ができる。 ・介護老人施設入所者に対して歯科口腔介護ができる。 ・公衆衛生現場において集団を対象とした歯科保健教育ができる。 ・歯科技工所の役割、業務が理解できる。 ・全身疾患を有する方（生活習慣病を有する方や抗がん剤治療を受けている方等）への口腔ケア、歯科診療補助ができる。 ・多職種と関わることができる。
成績評価方法	・施設評価 ・臨地実習・臨床実習への取り組みと実習態度 ・出席状況 ・提出物 ・1年次4単位、2年次9単位、3年次7単位の割合で最終評価とする ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	【教科書】 これまでに使用したすべての教科書、プリント
留意事項	実習に臨む心構えをきちんともたせ礼儀作法や身だしなみに注意させる。 注）授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す。

授業計画

回	内 容
1	歯科診療所 臨床実習：1
2	歯科診療所 臨床実習：2
3	歯科診療所 臨床実習：3
4	歯科診療所 臨床実習：4
5	歯科診療所 臨床実習：5
6	歯科診療所 臨床実習：6
7	歯科診療所 臨床実習：7
8	歯科診療所 臨床実習：8
9	歯科診療所 臨床実習：9
10	歯科診療所 臨床実習：10
11	歯科診療所 臨床実習：11
12	歯科診療所 臨床実習：12
13	介護施設 臨地実習：1
14	介護施設 臨地実習：2
15	病院歯科 臨床実習：13
16	小児歯科 臨床実習：14
17	矯正歯科 臨床実習：15

12. チームケア（実務教員による講義）

1 単位（選択必修）

第3学年（15時間）

担 当 教 員 名	北條 敬之 小山田 貴子 村松 真澄 源間 隆雄
授 業 科 目 概 要	患者・利用者中心の支援活動をチームで行うために、臨床現場で実際に行われている具体的な事例を聞き、他職種の特徴や多様性について理解する。 多職種連携が必要とされている背景を知り、理解を深める。
目 的	それぞれの職業における専門分野の特徴と多様性を理解する。 患者・利用者を中心とした多職種連携医療の意義と方法を理解する。 意欲・関心を高め、多職種との連携に役立てることができる。
学 習 目 標	・歯科衛生士以外の医療系職種について理解できる ・主な全身疾患とその対応について説明できる ・多職種連携時の歯科衛生士としての役割を理解できる ・臨床現場で求められている歯科衛生士像を理解できる
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	適宜資料配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1、2	多職種連携医療とその背景 多職種連携における看護師の関わり方（村松）
3	全身疾患を持っている患者の特性について①（北條）
4	全身疾患を持っている患者の特性について②（北條）
5	全身疾患を持っている患者の特性について③（北條）
6	全身疾患を持っている患者の特性について④（北條）
7	全身疾患を持っている患者の特性について⑤（北條）
8	多職種連携時に求められる 歯科衛生士について①（小山田）
9	多職種連携時に求められる 歯科衛生士について②（小山田）
10	多職種連携時に求められる 歯科衛生士について③（小山田）
11	多職種連携時に求められる 歯科衛生士について④（小山田）
12	多職種連携時に求められる 歯科衛生士について⑤（小山田）
13	多職種連携における言語聴覚士の関わり方（源間）
14	多職種連携における言語聴覚士の関わり方（源間）
15	多職種連携における言語聴覚士の関わり方（源間）

13. 総合学習Ⅰ（実務教員による講義）

1 単位（選択必修）

第3学年（15時間）

担 当 教 員 名	吉田 重光 中村 麻希 菅原 和美 中村 亜希子 高嶋 美佳 藤田 愛 伊達 万惟子
授 業 科 目 概 要	基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学んだことを総合的に学習する。科目ごとの知識を総合的に捉え、知識の統合を図る。
目 的	基礎分野、専門基礎分野、専門分野での知識をまとめ、総合的に捉えることで、科学的・論理的思考能力を育成する。
学 習 目 標	生命科学等の理解を深め、人体ならびに歯・口腔の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解し、健康・疾病について、その予防法と回復過程に関する知識をまとめ、観察力、判断力を培う。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する ・「秀」：90点以上，「優」：80点以上，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教 材	基礎分野、専門基礎分野で使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1～15	教員のもとで、各自がまとめを行う。

14. 総合学習Ⅱ（実務教員による講義）

2単位（選択必修）

第3学年（30時間）

担 当 教 員 名	吉田 重光 中村 麻希 菅原 和美 中村 亜希子 高嶋 美佳 藤田 愛 伊達 万惟子
授 業 科 目 概 要	専門分野で学んだことを総合的に学習する。科目ごとの知識を総合的に捉え、論理、技術の統合を図る。
目 的	専門分野の知識をまとめ、総合的に捉え、臨床の場面に適応できる能力を育成する。
学 習 目 標	歯科医療を科学的、論理的に理解し、論理と実践を結びつけて理解できる能力を培う。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	これまでに使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1～30	教員のもとで、各自がまとめを行う。

15. 総合学習Ⅲ（実務教員による講義）

2単位（選択必修）

第3学年（30時間）

担 当 教 員 名	吉田 重光 中村 麻希 菅原 和美 中村 亜希子 高嶋 美佳 藤田 愛 伊達 万惟子
授 業 科 目 概 要	理論的思考力を養うため、これまでに学んだ中から学生が各自でテーマを考え、それについての理解を深める。
目 的	知識をまとめる力を身につける。
学 習 目 標	歯科衛生士業務の範囲内では自分の判断、自分の考えが求められる。そのためにみんなで議論をし自分の考えを述べる訓練をし、それが出来るようになる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教 材	これまでに使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1～30	教員のもとで、各自がまとめを行う。

16. 総合学習Ⅳ（実務教員による講義）

2単位（選択必修）

第3学年（30時間）

担当教員名	吉田 重光 中村 麻希 菅原 和美 中村 亜希子 高嶋 美佳 藤田 愛 伊達 万惟子
授業科目概要	3年間で学んだことを集約する。多くの断片的歯科医学知識を立体的に組み立て、実際に臨床で有効に使えるようにする。
目的	知識と技術の統合を目的とする。
学習目標	歯科衛生士業務は殆どすべてが歯科医師の指示の基に行われることから、歯科衛生士教育では自分で判断する訓練がされていない。今後歯科衛生士に求められることは他の医科関係業種との連携であり、さらに介護の場面では全く異なった業種との連携が必要になってくる。その場面で歯科医師がいるとは限らず、歯科衛生士業務の範囲内では自分の判断、自分の考えが求められる。そのためにはみんなで議論し自分の考えを述べる訓練をし、それが出来るようになることが目標となる。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	これまでに使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留意事項	

授業計画

回	内 容
1～30	3年間で学んだ知識・技術の集大成を行う。